

テキスト定義機能の利用手引き



Job Director
R17

-
- Windows, Windows Server, Microsoft Azure, Microsoft Excel, Internet Explorer および Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - UNIX は、The Open Group が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。
 - HP-UX は、米国 HP Hewlett Packard Group LLC の商標です。
 - AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。
 - Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - Oracle Linux, Oracle Clusterware および Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
 - Red Hat は、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - SUSE は、SUSE LLC の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - NQS は、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。
 - SAP ERP, SAP NetWeaver BW および ABAP は、SAP AG の登録商標または商標です。
 - Amazon Web Services およびその他の AWS 商標は、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における商標です。
 - iPad, iPadOS および Safari は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
 - iOS は、Apple Inc. のOS名称です。IOS は、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
 - Docker は、米国およびその他の国で登録された Docker, Inc. の登録商標または商標です。
 - Firefox は、Mozilla Foundation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
 - UiPath は、UiPath 社の米国およびその他の国における商標です。
 - Box, boxロゴは、Box, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
 - その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、R、TM、cの記号は省略しています。

本マニュアルでは、製品名およびサービス名を次のように略称表記しています。

略称	製品名・サービス名
Office	Microsoft Office
Excel	Microsoft Excel
Azure	Microsoft Azure
Internet Explorer	Internet Explorer 11
Firefox	Mozilla Firefox
AWS	Amazon Web Services
EC2	Amazon Elastic Compute Cloud
EBS	Amazon Elastic Block Store
S3	Amazon Simple Storage Service
ELB	Elastic Load Balancing
CloudFormation, CF	AWS CloudFormation
CloudWatch, CW	Amazon CloudWatch
RDS	Amazon Relational Database Service
Glue	AWS Glue
Lambda	AWS Lambda
EKS	Amazon Elastic Kubernetes Service
ECS	Amazon Elastic Container Service
STS	AWS Security Token Service
CloudWatch Logs	Amazon CloudWatch Logs
SNS	Amazon Simple Notification Service

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェア）は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取りください。許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談ください。

はじめに

本書はJob DirectorのJDFフォーマットについて説明しています。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

1. Job Director R17.1における制限事項

Job Director R17.1と各マニュアルにおける制限事項を以下にまとめました。各マニュアルにおいて以下の制限事項・非対応機能に該当する記述が存在した場合、本項の内容を優先してください。

■マニュアル内のバージョン表記について

- 本製品以前に一般販売されたJob Directorは以下のバージョンのみです。本製品(R17.1)、および下記のバージョン以外は提供しておりません。マニュアル内における製品バージョンを限定した記載については、指定されたバージョンの範囲にこれらのバージョンが含まれている場合のみが該当します。
 - Job Director R12.10
 - Job Director R13.2
 - Job Director R15.1
 - Job Director R16.1
- Job Directorは以下のバージョンがクラスタに対応しております。マニュアル内における製品バージョンを限定した記載については、指定されたバージョンの範囲にこれらのバージョンが含まれている場合のみが該当します。
 - Job Director R15.1
 - Job Director R16.1
 - Job Director R17.1
- Job Director MG/SVのバージョンと、Job Director JD Assistの動作モードの対応は以下のとおりです。

動作モード	対応Job Director MG/SVバージョン
Definition 3.0	Job Director MG/SV R12.10
Definition 5.0	Job Director MG/SV R13.2
Definition 7.0	Job Director MG/SV R15.1
Definition 9.0	Job Director MG/SV R16.1
Definition 10.0	Job Director MG/SV R17.1

■Job Director R17.1の機能制限について

- 1つのJob Director MG/SVに登録できるジョブネットワーク数は、最大で50件です。
- ジョブネットワーク1件について、配置できる単位ジョブの上限は50個までです。
- 複数のJob Director MGを使用してジョブを管理することはできません。
- 対応言語は日本語のみです。英語、中国語には対応しておりません。
- Job Director R17.1が対応する動作モードはクラシックモードのみです。スタンダードモードには対応しておりません。
- クラスタソフトウェアはCLUSTERPRO、およびWindows Server Failover Cluster(WSFC)に対応します。
HP Serviceguard、およびIBM PowerHA、Oracle Clusterwareには対応しておりません。
- マシングループ機能、NQSフレームボタン、およびNQSフレーム画面は使用できません。



NQSフレーム画面に含まれる「キュー一覧」および「リクエスト一覧」は、マネージャフレームの「マシン一覧」から対象のマシンを選択して開くことで表示できます。




- UNIX OS(HP-UX、AIX、Solaris)には対応していません。
 - IPF(Itanium Processor Family、IA-64)には対応していません。
 - SAPの各サービスとの連携機能には対応していません。
 - WebOTX Batch Server(WOBS)との連携機能には対応していません。
 - iOS、iPadOS、Safariには対応していません。
 - コンテナ環境での動作は対応していません。
 - ACOSとの連携、およびACOS監視機能には対応していません。
 - SUPER-UX、およびSUPER-UX NQSとの連携には対応していません。
 - WebSAM SystemManager Gとの連携機能には対応していません。
 - Micro Focus Operations Manager software、およびOPCMMSG連携機能には対応していません。
 - UCX Singleジョブ機能には対応していません。
- マニュアルで使用される画像について
- マニュアル中で使用されている画面画像について、実際の画面と異なる場合は、実際の画面表示を正として読み替えてください。

2. マニュアルの読み方

- 本バージョンにおける新規機能や変更事項を理解したい場合
→ <リリースメモ>を参照してください。
- Job Director を新規にインストール、またはバージョンアップされる場合
→ <インストールガイド>を参照してください。
- Job Director を初めて利用される場合
→ <クイックスタート編>を参照してください。
- Job Director の基本的な操作方法を理解したい場合
→ <基本操作ガイド>を参照してください。
- 環境の構築や各種機能の設定を理解したい場合
→ <環境構築ガイド>を参照してください。
- Job Director の操作をコマンドラインから行う場合
→ <コマンドリファレンス>を参照してください。
- Job Director の運用方法を理解したい場合
→ <運用・構築ガイド>を参照してください。
- 運用中のJob Director を新環境に移行する場合
→ <移行ガイド>を参照してください。
- クラスタ環境で運用中のJob Director をバージョンアップする場合
→ <クラスタ環境でのバージョンアップ・パッチ適用ガイド>を参照してください。
- その他機能についてお知りになりたい場合
→ 関連マニュアルの内容をお読みいただき、目的のマニュアルを参照してください。

3. 凡例

本書内での凡例を紹介します。

	気をつけて読んでいただきたい内容です。
	本文中の補足説明
	本文中のヒントとなる説明
注	本文中につけた注の説明
—	Linux版のインストール画面の説明では、__部分(下線部分)はキーボードからの入力を示します。

4. 関連マニュアル

Job Director に関するマニュアルです。Job Director メディア内に格納されています。

資料名	概要
Job Director インストールガイド	Job Directorを新規にインストール、またはバージョンアップする場合の方法について説明しています。
Job Director クイックスタート編	初めてJob Directorをお使いになる方を対象に、Job Directorの基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
Job Director 基本操作ガイド	Job Directorの基本機能、操作方法について説明しています。
Job Director 環境構築ガイド	Job Directorを利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
Job Director NQS機能利用の手引き	Job Directorの基盤であるNQSの機能をJob Directorから利用する方法について説明しています。
Job Director 操作・実行ログ機能利用の手引き	Job Director CL/Winからの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
Job Director コマンドリファレンス	GUIと同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、Job Directorで用意されているコマンドについて説明しています。
Job Director クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムでJob Directorを操作するための連携方法について説明しています。
Job Director Helper機能利用の手引き	Excelを用いたJob Directorの効率的な運用をサポートするJob Director JD Assist (定義情報のメンテナンス)、Job Director Report Helper (帳票作成)、Job Director Analysis Helper (性能分析)の3つの機能について説明しています。
Job Director Web機能利用の手引き	Webブラウザ上でジョブ監視を行うことができるJob Director CL/Webについて説明しています。
Job Director テキスト定義機能の利用手引き	Job Directorの定義情報をテキストファイルで定義する方法について説明しています。
Job Director クラスタ環境でのバージョンアップ・パッチ適用ガイド	クラスタ環境で運用しているJob Directorのアップデート、パッチ適用手順を説明しています。
Job Director 拡張カスタムジョブ部品利用の手引き	拡張カスタムジョブとして提供される各部品の利用方法について説明しています。
Job Director 運用・構築ガイド	Job Directorの設計、構築、開発、運用について横断的に説明しています。
Job Director 移行ガイド	運用中のJob Directorを別の新環境に移行する手順について横断的に説明しています。
Job Director R17.1 リリースメモ	バージョン固有の情報を記載しています。

5. 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2025/11/20	新規作成	－	第1版

目次

はじめに	iv
1. Job Director R17.1における制限事項	v
2. マニュアルの読み方	vii
3. 凡例	viii
4. 関連マニュアル	ix
5. 改版履歴	x
1. はじめに	1
1.1. はじめに	2
1.2. 用語一覧	3
2. JDF形式の基礎	4
2.1. 概要	5
2.2. JDF形式の詳細規則	6
2.3. JDFのタイプについて	7
2.4. バリユー内のエスケープシーケンス	8
2.5. JPFバージョン	9
2.6. JDFのサンプル	10
3. jnwフォーマットタイプ	11
3.1. jnwフォーマットタイプについて	12
3.1.1. IDと種別	12
3.1.2. 部品共通設定	13
3.1.3. ジョブネットワークを新規作成する	15
3.1.4. ジョブネットワーク	20
3.1.5. 単位ジョブ	34
3.1.6. カレンダー分岐	48
3.1.7. 条件分岐	48
3.1.8. 並列分岐	49
3.1.9. OR分岐	49
3.1.10. ダイアログ	49
3.1.11. コンティニュー	50
3.1.12. サブジョブネットワーク	52
3.1.13. ジョブ待ち合わせ	52
3.1.14. ジョブネットワーク待ち合わせ	53
3.1.15. 時刻待ち合わせ	54
3.1.16. ファイル待ち合わせ	55
3.1.17. イベント送信	59
3.1.18. イベント受信	62
3.1.19. カスタムジョブ	66
3.1.20. グループ	83
3.2. jnwファイルのサンプル	85
4. schedフォーマットタイプ	88
4.1. schedフォーマットタイプについて	89
4.1.1. 共通設定	90
4.1.2. スケジュール設定	90
4.1.3. ルール設定	92
4.2. JDFファイル(schedタイプ)のサンプル	100
5. trgフォーマットタイプ	101
5.1. trgフォーマットタイプについて	102
5.1.1. 共通設定	102
5.1.2. 起動トリガ設定	103
5.1.3. 監視対象テキストログ	106
5.2. JDFファイル(trgタイプ)のサンプル	109
6. wkcalフォーマットタイプ	110
6.1. wkcalフォーマットタイプについて	111
6.1.1. 共通設定	112

6.1.2. 稼働日カレンダー設定	112
6.1.3. ルール設定	113
6.1.4. タイムゾーン設定	118
6.2. JDF(wkcalタイプ)ファイルのサンプル	124
7. customjob_templateフォーマットタイプ	125
7.1. customjob_templateフォーマットタイプについて	126
7.1.1. カスタムジョブテンプレート設定	127
7.1.2. グループ	141
7.2. customjob_templateファイルのサンプル	143
8. operationフォーマットタイプ	144
8.1. operationフォーマットタイプについて	145
8.2. operationファイルのサンプル	146
9. コマンド	147
10. 注意事項・制限事項	148
10.1. 注意事項	149
10.2. 制限事項	151

表の一覧

2.1. JDF形式の詳細規則	6
2.2. JDFのフォーマットタイプ	7
2.3. JPFバージョンの対応関係	9
8.1. operationファイルのパラメータ	145
8.2. operationパラメータに設定可能な値	145

1. はじめに

本書はJob Directorのテキスト定義機能について説明したドキュメントです。

1.1. はじめに

テキスト定義機能はJob Directorの定義(ジョブネットワーク、スケジュール、起動トリガ、監視対象テキストログ、カレンダー、カスタムジョブテンプレート)をテキストファイルで作成、登録を可能にする機能です。テキストファイルは[後述する](#)JDF(Job Director Definition Format)形式で定義の記述を行います。テキスト定義機能の利用の基本的な流れは以下のとおりです。

1. JDF形式で記述されたテキストファイルを作成する
2. 作成されたテキストファイルをjdh_convコマンドでJob Director MGに登録可能なJPF形式へ変換を行う
3. 作成したJPFファイルをJob Director CL/Winもしくはjdh_uploadコマンドを用いて、Job Director MGへ登録を行う

また、Job Director CL/Winを用いてダウンロードしたJPFフォーマットやDefiniton Helperを用いて作成した定義情報のJPFファイルをjdh_convコマンドを用いて、JDF形式に変換することも可能です。

Job Director MGからのJPFファイルダウンロードおよび、Job Director MGへのJPFファイルアップロードについては、<基本操作ガイド>の12章「アップロード・ダウンロード機能」を参照してください。

1.2. 用語一覧

テキスト定義機能で共通で使用する用語について一覧を記載します。

用語	説明
JDF(Job Director Definition Format)	Job Directorで定義情報(ジョブネットワーク、スケジュール、起動トリガ、監視対象テキストログ、カレンダー、カスタムジョブテンプレート)をテキスト形式で定義するためのフォーマットです。
JPF(Job Director Portable Format)	Job Directorの定義情報、構成情報等のJob Directorに関する情報を扱うバイナリフォーマットです。
jd_convコマンド	Job Directorに付属するJDF形式をJPF形式にまたはその逆変換を行うコマンドです。
Job Director JD Assist	Job Directorの定義情報をExcelで定義できる製品です。テキスト定義機能はJD AssistのExcelで定義できることをテキストファイルでできるようにしたものです。従ってパラメータの記載方法等共通する部分が多くあります。
ダウンロード	Job Director MGからJob Director定義情報をJPFファイル形式でリモート取得する機能を指します。CL/Winおよびjd_downloadコマンドを用いてダウンロード可能です。
アップロード	Job Director MGへJPFファイル形式の定義情報をリモートから格納・反映する機能を指します。CL/Winおよびjd_uploadコマンドを用いてアップロード可能です。

2. JDF形式の基礎

本章では各種のJDF形式に共通する基本的な文法について説明します。

2.1. 概要

JDF形式はテキスト形式であり、JDFファイルの文字コードはUTF-8になります。また、改行コードはCRLFになります。ファイル先頭にBOM(Byte Order Mark)は必要ありません。また、JDFでは英字の大文字、小文字は区別されます。ファイル名や拡張子には規則はありませんが、本マニュアルではJDF形式のファイルは".jdf"の拡張子をつけて表現します。

JDF形式は内部的には「[2.3 JDFのタイプについて](#)」で説明する各フォーマットタイプに分類されますが、本章では全種類に共通する形式について説明します。

JDFの編集にはUTF-8の文字コードで保存可能なテキストエディタをご使用ください。



Windowsのメモ帳はUTF-8で保存するとBOMがつくので使用しないでください。また、他のエディタでもUTF-8で保存したときにBOMを付加するものは使用しないでください。

2.2. JDF形式の詳細規則

JDF形式のファイルの詳細な記述規則を以下に記載します。

表2.1 JDF形式の詳細規則

項番	JDFの記述規則	例
1	JDFファイルはヘッダセクションとボディセクションからなる。ヘッダセクションとボディセクションはセクションセパレータ("%%")で区切られる。	[JDF] [HeaderSection] %% [BodySection]
2	ヘッダセクションはひとつのオブジェクトからなる。	[HeaderSection] [Object]
3	ボディセクションは複数のオブジェクトから構成される。オブジェクトはオブジェクトセパレータ("---")で区切られる。	[BodySection] [Object] --- [Object] --- and more...
4	オブジェクトは改行で区切られた複数のパラメータから構成される。	[Object] [Parameter] [Parameter] and more...
5	パラメータはキーとバリューから構成され、キーとバリューは等号(=)で区切られている。キーと等号もしくは等号とバリューの間にはスペースが入っていてもよい。	[Parameter] [Key] = [Value]
6	キーは英数字と次の記号(-_@\$)のみで構成される。	[key] abc_ABC_123
7	バリューはダブルクォーテーション(")で囲まれた印字可能な文字で構成される。ダブルクォーテーション自体はバリューには記述できない。(後述するエスケープシーケンスを使えばダブルクォーテーションを表現可能)	[Value] "サンプル"
8	コメントは"#"以降がコメントとみなされる。コメントは行先頭からコメントにすることもできるし、パラメータの最後にも付加できる。ただし、バリューの中の"#"は文字として扱われ、コメントとはならない。コメントや空白はJPF形式に変換される際に削除される。	Comment #これはコメントです key = "value" #行の最後もOK
9	空行(改行のみの行)、および空白(TabとSpaceのみ)の行、コメントのみの行は単に無視され、JPF形式に変換される際に削除される。	
10	ヘッダにはタイプとバージョンが必要になる。現在のJDFのバージョンは1.0のみである。タイプについては後述する。	version="1.0" type="jnw"

2.3. JDFのタイプについて

JDFには以下のようなフォーマットタイプがあり、タイプに応じて定義可能なキーとバリューが異なります。フォーマットタイプは必ずJDFのヘッダセクションで指定する必要があります。ひとつのファイルに複数のタイプを混在させることはできません。

表2.2 JDFのフォーマットタイプ

フォーマットタイプ	説明
jnw	ジョブネットワーク定義を作成するためのフォーマットです。詳細は 3章「jnwフォーマットタイプ」 を参照してください。
sched	スケジュール定義を作成するためのフォーマットです。詳細は 4章「schedフォーマットタイプ」 を参照してください。
trg	起動トリガ定義と、その関連情報を作成するためのフォーマットです。詳細は 5章「trgフォーマットタイプ」 を参照してください。
wkcal	カレンダー定義を作成するためのフォーマットです。詳細は 6章「wkcalフォーマットタイプ」 を参照してください。
customjob_template	カスタムジョブテンプレート定義を作成するためのフォーマットです。詳細は 7章「customjob_templateフォーマットタイプ」 を参照してください。
operation	定義の操作を指定するフォーマットです。詳細は 8章「operationフォーマットタイプ」 を参照してください。

2.4. バリユー内のエスケープシーケンス

バリユー内で入力できない記号のために以下のエスケープシーケンスが定められています。エスケープシーケンスを解釈するかどうかは各フォーマットタイプやパラメータによって異なります。

記号	意味
\n	改行(LinuxではLF,WindowsではCRLF)
\w	ダブルクォーテーション(")
\q	シングルクォーテーション(')
\b	バックスラッシュ(\)

2.5. JPFバージョン

JDFファイルからJPFファイルへ変換はjdh_convコマンドを用いて行います。このときJPFバージョンを指定することで過去バージョンと互換性のあるJPFファイルを作成することができます。JPFバージョンとJob Director MG/SVとの対応関係は以下のとおりです。

表2.3 JPFバージョンの対応関係

JPFバージョン	対応Job Director MG/SVバージョン
Definition 3.0	Job Director MG/SV R12.10
Definition 5.0	Job Director MG/SV R13.2
Definition 7.0	Job Director MG/SV R15.1
Definition 9.0	Job Director MG/SV R16.1
Definition 10.0	Job Director MG/SV R17.1

JPFバージョンの意味は以下のとおりです。

- R12.10のJob Directorから定義をダウンロードするとDefinition 3.0のJPFファイルになります。R13.2のJob Directorから定義をダウンロードするとDefinition 5.0のJPFファイルになります。
- JPFバージョンが古いJob Directorサーバに新しいJPFバージョンのJPFをアップロードできません。例えば、Definition 3.0をサポートしているR12.10のサーバにDefinition 5.0や7.0のJPFファイルはアップロードできません。
- JPFバージョンが新しいJob Directorサーバに古いJPFバージョンのJPFをアップロードすることができます。例えば、Definition 7.0をサポートしているR15.1のサーバにDefinition 3.0や5.0のJPFファイルをアップロードすることができます。
- JPFバージョンによって、ジョブネットワークや部品に定義できるパラメータが異なります。詳細は以降の章の「互換性」の部分を確認してください。



- JPFバージョンはJDFのヘッダセクションに指定するバージョンとは異なります。
- 現行のjdh_convでは互換性のチェックは行っていません。JPFバージョンに応じて、正しいパラメータを定義する必要があります。

2.6. JDFのサンプル

以下はJDFの最低限の文法に従った架空の"test_format"のサンプルです。 正規のフォーマットは各種フォーマットタイプの章を参照してください。

#以下はJDFの最低限の文法に従った架空の"test_format"のサンプルです。

```
version="1.0"
type="test_format"
%%
a1="テスト"
a2="tete"
a3 = "update" #等号の間に空白もOK
---
#moheを作成
b1 ="toto"
b2 ="toto"
b3 ="nn \n \" test \n" #エスケープシーケンス
---
#空行やコメントのみの行は無視される

c1="soso"
c2=""
#c3 = "nini"
#c4="nini"
```

3. jnwフォーマットタイプ

本章ではJDFフォーマットのjnwフォーマットタイプについて説明します。

3.1. jnwフォーマットタイプについて

jnwフォーマットタイプは、ジョブネットワーク定義を作成するためのフォーマットです。ヘッダセクションのtype/パラメータには"jnw"を指定します。jnwフォーマットは以下のようにJob Directorの1部品に対して、1オブジェクトを割り当てます。また各部品のタイプによって設定できるパラメータが異なります。

単位ジョブ1個を配置したジョブネットワークの記述例

```
type="JNW"
id="1"
name="jnw1"
---
type="UJOB"
id="2"
name="JOB1"
pre_parts="1"
```

パラメータが必須と記載されているものは必ず指定する必要があります。パラメータが必須かどうかは部品ごとに異なります。またパラメータによっては他のパラメータの設定によって必須かどうかが変わるものもありますが、詳細は各パラメータの設定を確認してください。

パラメータは必須となっているもの以外は省略が可能です。省略された場合は、システムであらかじめ定義されているデフォルト値と解釈されます。また、パラメータのバリューを空("")にした場合も省略されたと解釈されて、デフォルト値が適用されます。

部品の記載順番は動作には影響なく、pre_partsパラメータ等で指定する依存関係のみがJNW定義の構成を決めます。また、部品内のパラメータの記載順序も動作には影響ありません。



テキスト定義機能ではCL/Winから設定可能な部品のデフォルトパラメータの設定の影響は受けません。省略可能な部品のパラメータが省略された場合は、システムであらかじめ定義されているデフォルト値と解釈されます。

以下に説明する各部品パラメータの定義条件は下記表の通りです。

定義条件	説明
フォーマット	指定された入力形式に従って定義してください。
設定範囲	範囲内のパラメータを選択して定義してください。
文字制限	この制限に当てはまる文字、文字列を指定できません。
デフォルト値	省略可能なパラメータのデフォルト値です。「なし」になっているものはJob Directorとして指定しなくても動作可能なものか、空欄として指定されて意味あるものになります。必須なパラメータにはデフォルト値はありません。
互換性	パラメータがサポートされたJPFバージョンが記載しています。例として「Definition 5.0以降」となっている場合はそのパラメータは「Definition 5.0」以降のバージョンのJPFで使用可能です。互換性の記載がないものは「Definition 1.0」からサポートされています。

3.1.1. IDと種別

ジョブネットワークを作成するためにはジョブネットワーク、およびジョブネットワーク中に配置する部品を一意に識別するためのIDと部品の種別を決定する必要があります。IDと種別で設定できる値は次の通りです。

■ ID

ファイルで一意な部品のIDを指定します。本パラメータは全部品で必須です。

■ キー

id

■ バリユー

- ・ 設定範囲

0-999999

■ 種別

部品の種別を指定します。本パラメータは全部品で必須です。

■ キー

type

■ バリユー

- ・ 設定範囲

項目名	説明
JNW	ジョブネットワーク
UJOB	単位ジョブ
CALB	カレンダー分岐
CONDB	条件分岐
PARAB	並列分岐
ORB	OR分岐
DIA	ダイアログ
CONT	コンティニュー
SJNW	サブジョブネットワーク
WJOB	ジョブ待ち
WSJNW	サブジョブ待ち
WTIME	時刻待ち
WFILE	ファイル待ち
EVTSND	イベント送信
EVTRCV	イベント受信
CUSTOMJOB	カスタムジョブ
JNWGRP	グループ

3.1.2. 部品共通設定

部品の種別に関わらず共通で設定する項目として「名前」と「部品の関連」があります。

「名前」は各部品の名前を決定するために使用します。「部品の関連」はジョブネットワーク内での順序関係、分岐部品を利用した分岐を決定するために使用し、「先行部品」「分岐ID」「分岐数」の三種類の設定を行います。

それぞれの設定可能なパラメータは次の通りです。

■ 名前

部品の名前を指定します。

■ キー

name

■ バリュー

・ 設定が必須な部品種別

・ ジョブネットワーク

・ 単位ジョブ部品

・ サブジョブネットワーク部品

・ ダイアログ部品

・ イベント送信部品

・ イベント受信部品

・ カスタムジョブ部品

・ グループ

・ 文字制限

1. 最大バイト数は40バイトです。

2. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。

3. スペース、タブ、半角カタカナ、改行および以下の文字は使用できません。

! " # \$ % & ' () * , . / : ; < = > ? @ [\] ^ _ { | } ~



サブジョブネットワーク名にエイリアス名を使用する場合は、以下のフォーマットで指定してください。

エイリアス名(ジョブネットワーク名)

(例)alias1(subjobnetwork1)

なお、エイリアス名、ジョブネットワーク名は、それぞれ文字制限を満たす必要があります。

■ 部品の関連-先行部品

先行部品のIDを指定します。JNWの先頭の部品は先行部品としてJNWを指定します。JNWは先行部品を指定しません。本パラメータはJNW以外は必須パラメータです。

■ キー

pre_parts

■ バリュー

・ 設定範囲

0-999999

■ 部品の関連-分岐ID

先行部品が分岐部品の場合に、どの枝に接続するか指定します。分岐IDが0の場合は、先行の分岐部品自体を先行部品とみなします。先行部品が分岐部品の場合は必須パラメータです。

■ キー

branch_id

■ バリュー

- ・ 設定範囲

0-999999

■ 部品の関連-分岐数

分岐部品の場合に、分岐数を設定します。分岐部品(CONDB,ORB,CALB,PARAB)では必須パラメータです。

■ キー

branch_num

■ バリュー

- ・ 設定範囲

0-999999

3.1.3. ジョブネットワークを新規作成する

テキスト定義機能を使ってジョブネットワークを新規に作成するには、フローの依存関係を手動で定義する必要があります。このため、あらかじめフローの完成図を想定し、それを元に順に依存関係を定義していくことを推奨します。

ここでは以下のようなジョブネットワークをテキスト定義機能で定義する場合の例を説明します。



各部品のアイコンについては、<基本操作ガイド>の「部品オブジェクトの使用法」を参照してください。

また、Job Director R17.1ではSAPの各サービスとの連携機能に対応しておりません。

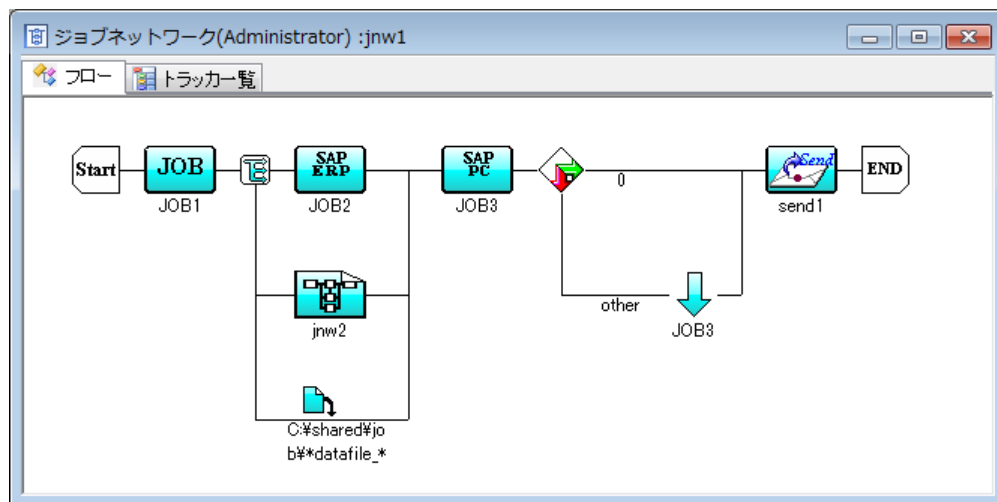


図3.1 サンプルジョブネットワーク

使用する部品の種別と名前は以下の通りです。

部品名	説明	種別
jnw1	ジョブネットワーク	JNW
JOB1	単位ジョブ	UJOB
(なし)	並列分岐	PARAB
JOB2	ERPジョブ	ERPJOB
DIA1	ダイアログ部品	DIA
jnw2	サブジョブネットワーク	SJNW
(なし)	ファイル待ち合わせ	WFILE
JOB3	プロセスチェーン・ジョブ	PCJOB
(なし)	条件分岐	CONDB
(なし)	コンティニュー部品	CONT
send1	イベント送信部品	EVTSEND

以下の説明では設定例として、その手順で新しく設定したセルを水色で表示します。

1. id(ID)、type(種別)、name(名前)、pre_parts(先行部品)、分岐ID(branch_id)、分岐数(branch_num)を以下のように記述します。

id	type	name	pre_parts	branch_id	branch_num
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1			
30	PARAB				
40	ERPJOB	JOB2			
50	DIA	DIA1			
60	SJNW	jnw2			
70	WFILE				
80	PCJOB	JOB3			
90	CONDB				
100	CONT				
110	EVTSEND	send1			

2. フローの先頭は単位ジョブJOB1なので、id=20(JOB1)の先行部品(pre_parts)としてid=10(jnw1)を指定します。

id	type	name	pre_parts	branch_id	branch_num
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB				
40	ERPJOB	JOB2			
50	DIA	DIA1			
60	SJNW	jnw2			
70	WFILE				
80	PCJOB	JOB3			

id	type	name	pre_parts	branch_id	branch_num
90	CONDB				
100	CONT				
110	EVTSDND	send1			

3. 単位ジョブJOB1の後ろには並列分岐部品を配置するので、id=30(並列分岐)の先行部品にid=20(JOB1)を指定します。またこの並列分岐は3つの分岐をもつので、分岐数(branch_num)に3を指定します。

id	type	name	pre_parts	branch_id	branch_num
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2			
50	DIA	DIA1			
60	SJNW	jnw2			
70	WFILE				
80	PCJOB	JOB3			
90	CONDB				
100	CONT				
110	EVTSDND	send1			

4. 並列分岐の各分岐の先頭には、それぞれ単位ジョブJOB2、サブジョブネットワークjnw2、ファイル待ち合わせ部品を配置します。これら3つの部品の先行部品には全てid=30(並列分岐)を指定しますが、どの分岐に配置するかを指定するために分岐ID(branch_id)を指定します。分岐ID(branch_id)は上から順に1,2,3,...と指定するので、それぞれ以下のように指定にします。

id	type	name	pre_parts	branch_id	branch_num
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2	30	1	
50	DIA	DIA1			
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3			
90	CONDB				
100	CONT				
110	EVTSDND	send1			

5. ERPジョブJOB2の次にはダイアログ部品DIA1を配置するので、id=50(DIA1)の先行部品(pre_parts)としてid=40(JOB2)を指定します。

id	type	name	pre_parts	branch_id	branch_num
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3

id	type	name	pre_parts	branch_id	branch_num
40	ERPJOB	JOB2	30	1	
50	DIA	DIA1	40		
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3			
90	CONDB				
100	CONT				
110	EVTSDND	send1			

6. 並列分岐の後ろにはプロセスチェーン・ジョブJOB3を配置するので、id=80(JOB3)の先行部品にid=30(並列分岐)を指定します。このとき分岐ID(branch_id)は指定しないようにします。

先行部品が分岐部品で分岐ID(branch_id)を指定していない場合、分岐したパスではなく分岐部品全体の後ろに配置されます。

id	type	name	pre_parts	branch_id	branch_num
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2	30	1	
50	DIA	DIA1	40		
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3	30		
90	CONDB				
100	CONT				
110	EVTSDND	send1			

7. プロセスチェーン・ジョブJOB3の後ろに条件分岐を配置するので、id=90(条件分岐)の先行部品(pre_parts)にid=80(JOB3)を指定します。条件分岐は2つに分岐するので、分岐数(branch_num)に2を指定します。

id	type	name	pre_parts	branch_id	branch_num
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2	30	1	
50	DIA	DIA1	40		
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3	30		
90	CONDB		80		2
100	CONT				
110	EVTSDND	send1			

8. 条件分岐の下パスにはコンティニュー部品を配置するので、id=100(コンティニュー部品)の先行部品にid=90(条件分岐)を指定します。このとき分岐ID(branch_id)として2を指定します。

id	type	name	pre_parts	branch_id	branch_num
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2	30	1	
50	DIA	DIA1	40		
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3	30		
90	CONDB		80		2
100	CONT		90	2	
110	EVTSEND	send1			

9. 条件分岐の後ろにイベント送信部品send1を配置するので、id=110(send1)の先行部品にid=90(条件分岐)を指定します。このとき分岐ID(branch_id)は指定しません。

id	type	name	pre_parts	branch_id	branch_num
10	JNW	jnw1			
20	UJOB	JOB1	10		
30	PARAB		20		3
40	ERPJOB	JOB2	30	1	
50	DIA	DIA1	40		
60	SJNW	jnw2	30	2	
70	WFILE		30	3	
80	PCJOB	JOB3	30		
90	CONDB		80		2
100	CONT		90	2	
110	EVTSEND	send1	90		

以上でジョブネットワークの依存関係の定義は終了です。後は部品の種別に応じて必要なパラメータを追加する必要があります。部品ごとのパラメータの詳細はこの後の章で説明します。

以下に上記のジョブネットワークの依存関係のみのJDFサンプルを記載します。(依存関係以外のパラメータは省略してあります)

```
id="10"
type="JNW"
name="jnw1"
---
id="20"
type="UJOB"
name="JOB1"
pre_parts="10"
---
id="30"
type="PARAB"
```



```

pre_parts="20"
branch_num="3"
---
id="40"
type="ERPJOB"
name="JOB2"
pre_parts="30"
branch_id="1"
---
id="50"
type="DIA"
name="DIA1"
pre_parts="40"
---
id="60"
type="SJNW"
name="jnw2"
pre_parts="30"
branch_id="2"
---
id="70"
type="WFILE"
pre_parts="30"
---
id="80"
type="PCJOB"
name="JOB3"
pre_parts="30"
---
id="90"
type="CONDB"
pre_parts="80"
branch_num="2"
---
id="100"
type="CONT"
pre_parts="90"
branch_id="2"
---
id="110"
type="EVTSND"
name="send1"
pre_parts="90"

```

3.1.4. ジョブネットワーク

種別に「JNW」（ジョブネットワーク）を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■所属グループ

ジョブネットワークの所属グループを指定します。グループに所属していない場合は本パラメータは不要です。フォーマットは以下のように「.」で始めてグループ階層を「.」で区切って並べます。

- キー
 - group
- バリュー

- フォーマット

.<group1>.<group2>.<group3>

- 文字制限

1. 各グループ階層（<group1>、<group2>の部分）の最大バイト数は40バイトです。
2. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
3. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

- デフォルト値

なし

■コメント

ジョブネットワークにつけるコメントを指定します。トラッカー一覧に表示されます。

- キー

comment

- バリユー

- 最大バイト数は256バイトです。

- 文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

^#\$() [] { } \ | < > " & '

- デフォルト値

なし

■デフォルト投入キュー

このジョブネットワークに属する各ジョブを投入するキューを指定します。

- キー

queue

- バリユー

- フォーマット

フォーマットは以下のとおりです。マシン名は必ず入れるようにしてください。

<キュー名>@<マシン名>

- 文字制限

- キュー名

1. 最大バイト数は15バイトです。

2. 半角英数字、アンダーラインのみ指定可能です。また、最初の文字を数字にすることはできません。

- ・ マシン名

1. 最大バイト数は63バイトです。
2. 数値のみの名前は使用できません。
3. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

! " # \$ % & ' () * , / : ; < = + > ? @ [\] ^ _ { | } ~

- ・ デフォルト値

なし

■エラー時の自動停止

ジョブネットワークを実行中にエラーが発生したときのジョブネットワークの動作を指定します。

- キー

estop

- バリユー

- ・ 設定範囲

"def" - 「規定」 サブジョブネットワークとして実行されている場合は、その親ジョブネットワークのパラメータに従います。それ以外は、ユーザ環境設定での設定に従います。

"stop" - 「停止」 エラー発生時にジョブネットワークを停止します。

"thru" - 「停止しない」 エラー発生時にジョブネットワークを停止しません。

"quit" - 「中断」 エラー発生時にジョブネットワークの実行を中断します。（後続のジョブをスキップ状態にします。）

- ・ デフォルト値

def

■自動停止後リカバリJNWを実行

「エラー時の自動停止」で「stop(停止)」または「quit(中断)」が行われた際に実行するリカバリ用のサブジョブネットワーク名を設定します。

- キー

recovery_jnw

- バリユー

- ・ 文字制限

1. 最大バイト数は40バイトです。
2. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
3. スペース、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^`{|}~

- ・ デフォルト値

なし

■ 互換性

Definition 9.0以降

■ スケジュール

ジョブネットワークを関連付けるスケジュールを指定します。

■ キー

sched

■ バリユー

- ・ 文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
2. スペース、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^`{|}~

- ・ デフォルト値

なし

■ 同時実行状態-排他種別

ジョブネットワークの同時実行状態の排他種別を設定します。

また、この設定はサブジョブネットワークには適用されません。

■ キー

exclusive_mode

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"single" - 「ジョブネットワーク単独の排他」 ジョブネットワーク単独での同時実行制御を行います。この値を設定した場合、「同時実行状態-同時起動可能数-起動数」と「同時実行状態-同時起動可能数-待ち状態」のパラメータが設定できます。

"multiple" - 「ジョブネットワーク単独の排他」 複数のジョブネットワーク間での同時実行制御を行います。この値を設定した場合、「同時実行状態-排他JNW名」のパラメータが設定できます。この設定の場合、同時起動可能数の起動数は1で、待ち状態は「wait(予定)」のみの動作になります。

- ・ デフォルト値

single

■ 互換性

Definition 9.0以降

■同時実行状態-同時起動可能数-起動数

排他種別が未設定、または「single(ジョブネットワーク単独の排他)」の時に設定できます。

このジョブネットワークを同時に起動できる数を指定します。本パラメータを指定しない場合には無制限になります。

また、この設定はサブジョブネットワークには適用されません。

■ キー

run_limit

■ バリュー**・ 設定範囲**

1-9999

・ デフォルト値

なし(無制限)

■同時実行状態-同時起動可能数-待ち状態

排他種別が未設定、または「single(ジョブネットワーク単独の排他)」の時に設定できます。

起動可能数を超えた場合の処理を設定します。

また、この設定はサブジョブネットワークには適用されません。

■ キー

run_limit_wait

■ バリュー**・ 設定範囲**

"wait" - 「予定」 制限数を超えた場合には実行中のジョブネットワークが終了するのを待って実行します。複数のジョブネットワークが待ち合わせる場合は予定開始時刻の早いジョブネットワークが優先されます。この場合、トラッカの状態は「予定」になります。

"skip" - 「スキップ」 制限数を超えた場合にはその後投入されるジョブネットワークの実行は全てスキップされます。この場合、トラッカの状態は「スキップ」になります。

・ デフォルト値

wait

■同時実行状態-排他JNW名

排他種別が「multiple(ジョブネットワーク同士の排他)」の時に設定できます。

このジョブネットワークと同時実行制御を行うジョブネットワークの名前を記述します。

複数のジョブネットワークを設定したい場合は、パラメータを複数行同じフォーマットで記述します。

このジョブネットワークも同時に実行できない様にする場合には、このジョブネットワークの名前も排他JNW名に記述する必要があります。

また、この設定はサブジョブネットワークには適用されません。



排他JNW名に記述した名前のジョブネットワークが定義されている場合、排他JNW名に記述したジョブネットワークの定義側の排他JNW名に、このジョブネットワークの名前を記述する必要があります。記述していない場合、定義情報のアップロード時の依存関係のチェックでエラーとなり、アップロードに失敗します。

■ キー

exclusive_jnw

■ バリュー

・ 文字制限

1. 最大バイト数は40バイトです。
2. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
3. スペース、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

・ デフォルト値

なし

■ 互換性

Definition 9.0以降

■ シミュレーション実行

この属性が設定されていた場合には、そのジョブネットワークは全てのジョブの実行時、予定されているジョブスクリプトの代わりに、空のジョブ（スクリプト）を実行します。このパラメータが"on"に設定されている間は、全ての即時実行、カレンダー実行がシミュレーション実行になります。

■ キー

simula

■ バリュー

・ 設定範囲

"on"

"off"

・ デフォルト値

off

■ 事前設定

ジョブネットワークを実行した時のジョブネットワークの状態を設定します。

■ キー

initflag

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"hold" - 「保留」

"skip" - 「スキップ」

"off" - 「オフ」

- ・ デフォルト値

off

■ 予想実行時間-指定方法

予想実行時間の指定方法を設定します。

■ キー

expflag

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"set" - 「直接指定」 ジョブネットワークのパラメータの値（"時間"パラメータ）をジョブネットワークの予想実行時間とします。

"res" - 「前回実績」 正常終了した最近のジョブネットワークの実行実績から、ジョブネットワーク全体の予想実行時間を算出します。

"cal" - 「下位累積」 正常終了した最近のジョブネットワーク内部のジョブあるいはサブジョブネットワーク単位の予想実行時間から、ジョブネットワーク全体の予想実行時間を算出します。ジョブネットワーク内部のジョブあるいはサブジョブネットワークの予想実行時間は、それぞれの予想実行時間の設定方法に依存します。

- ・ デフォルト値

cal

■ 予想実行時間-時間

指定方法(expflag)で直接指定(set)を選択した場合に、時間を指定します。単位によって値の設定範囲が異なります。expflagでsetを指定した場合は本パラメータは必須です。

■ キー

exptime

■ バリユー

- ・ 設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" - 「時間」

0-365 "day" - 「日」

- デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■超過警告

予想実行時間を過ぎてもジョブネットワークが終了しない場合に、統合監視サービスやWindows イベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

- キー

etimewarn

- バリユー

- 設定範囲

"on" - 警告メッセージを出力します。

"off" - 警告メッセージを出力しません

- デフォルト値

off

■終了予定時刻超過時

超過警告onの場合に、予想実行時間を過ぎてもジョブネットワークが終了しない時の動作を設定します。超過警告をonにした場合、本パラメータは必須です。

- キー

overtime

- バリユー

- 設定範囲

"def" - 「規定」

"cont" - 「停止しない」

"stop" - 「停止する」

"skip" - 「スキップ」

- デフォルト値

def

■クリティカルポイント警告-警告動作の有無

onの場合、クリティカルポイント警告機能が有効になります。

- キー

critpt_warn

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"on"

"off"

- ・ デフォルト値

off

■ クリティカルポイント警告-検査箇所

検査の実行点を指定します。クリティカルポイントがonの場合、本パラメータは必須です。

■ キー

critpt_at

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"start" - 「実行開始点」

"end" - 「実行終了点」

"both" - 「すべて」

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■ クリティカルポイント警告-実行開始点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。critpt_atが「start」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

■ キー

critpt_timeS

■ バリユー

- ・ フォーマット

①絶対時刻(Definition 9.0以前)

00:00～23:59

①絶対時刻(Definition 10.0以降)

00:00～99:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■クリティカルポイント警告-実行開始点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。critpt_atが「start」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_actionS

- バリュー

- ・ 設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"hold" - 「保留」

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■クリティカルポイント警告-実行終了点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻指定します。critpt_atが「end」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_timeE

- バリュー

- ・ フォーマット

①絶対時刻(Definition 9.0以前)

00:00～23:59

①絶対時刻(Definition 10.0以降)

00:00～99:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■クリティカルポイント警告-実行終了点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。critpt_atが「end」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

■ キー

critpt_actionE

■ バリュー

・ 設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"forcestop" - 「強制停止」

"hold" - 「保留」

・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■ 環境変数

単位ジョブ実行時に付与される環境変数を設定することができます。環境変数は下記フォーマットで「変数」「値」「コメント」を1行で記述します。複数の変数を設定したい場合は、パラメータを複数行同じフォーマットで記述します。

■ キー

envparam

■ バリュー

・ フォーマット

"'変数','値','コメント'"

・ サイズ制限

変数名の最大バイト数は51バイトです。

値の最大バイト数は256バイトです。

コメントの最大バイト数は256バイトです。

・ エスケープシーケンス

コメントに改行を入れたい場合は以下のエスケープシーケンスを使用します。

\n - 改行 -(コメントのみ)

・ 文字制限

タブ、スペース、改行および以下の文字は使用できません。

= #"

・ デフォルト値

なし

■メール設定-エラー時のメール送信

このジョブネットワークでエラー発生時にメールを送信するかどうかを設定します。

■ キー

sendmail

■ バリュー

・ 設定範囲

"on" - 「する」

"off" - 「しない」

・ デフォルト値

off

■メール設定-TO

メールの宛先アドレスを設定します。カンマ","で区切って、複数のアドレスを指定することができます。sendmailパラメータがonの場合は本パラメータは必須です。

■ キー

mailto

■ バリュー

・ 文字制限

1. 1024バイトまで設定可能です。
2. ひとつのメールアドレスの最大長は250バイトです。
3. 複数のメールアドレスを設定する場合、64個以内で設定可能です。
4. 2バイト文字、スペース、および以下の文字は使用できません。

' () + : < > "

・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■メール設定-CC

メールの宛先アドレスを設定します。カンマ","で区切って、複数のアドレスを指定することができます。

■ キー

mailcc

■ バリュー

・ 文字制限

1. 1024バイトまで設定可能です。
2. ひとつのメールアドレスの最大長は250バイトです。

3. 複数のメールアドレスを設定する場合、64個以内で設定可能です。

4. 2バイト文字、スペース、改行および以下の文字は使用できません。

' () + : < > "

- デフォルト値

なし

■メール設定-FROM

メールの送信元アドレスを設定します。sendmailパラメータがonの場合は本パラメータは必須です。

- キー

mailfrom

- バリュー

- 文字制限

1. 250バイトまで設定可能です。

2. 2バイト文字、空白、および以下の文字は使用できません。

' () + : , < > "

- デフォルト値

なし

■メール設定-件名

送信するメールの件名を指定します。

- キー

mailsubject

- バリュー

- 文字制限

1. 1024バイトまで設定可能です。

2. 以下の文字は使用できません。

' "

- デフォルト値

なし

■メール設定-本文

送信するメールの本文を指定します。

- キー

mailmsg

■ バリユー

- ・ エスケープシーケンス

以下のエスケープシーケンスを認識します。

改行 -> \n

\ -> \b

- ・ 文字制限

1. 1024バイトまで設定可能です。

2. エスケープ対象文字および以下の文字は使用できません。

‘ ’

- ・ デフォルト値

なし

■ メール設定-SMTPサーバ

SMTP サーバを指定します。SMTP サーバのホスト名、またはIPアドレスを指定してください。「エラー時のメール送信」で「する」を選択している場合、必ず指定してください。システム環境設定「SMTPサーバ」において共通SMTPサーバを設定した場合には、本欄は無効です。sendmailパラメータがonの場合は本パラメータは必須です。

■ キー

mailsmtpserver

■ バリユー

- ・ 文字制限

1. 256バイトまで設定可能です。

2. スペース、タブ、半角カタカナ、全角文字、改行および以下の文字は使用できません。

! " # \$ % & ' () * , / ; < = > ? @ [\] ^ ` { | } ~

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■ 補正時刻

JNW個別の補正時刻を設定します。本項目はシステム環境設定で「ジョブネットワーク個別の設定を行う」を設定した場合にのみ有効です。

■ キー

basetime

■ バリユー

- ・ 設定範囲

①絶対時刻

00:00 ~ 23:59

②相対時刻

-23:59 ~ -00:00

- デフォルト値

00:00

3.1.5. 単位ジョブ

種別に「UJOB」(単位ジョブ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■スクリプト

単位ジョブのスクリプトを記述します。

- キー

script

- バリユー

- 文字制限

改行、(")ダブルクォート、(\)円マーク(バックスラッシュ)を直接記述することはできません。これらを記述する際には下記のエスケープシーケンスを使用します。

- エスケープシーケンス

改行 -> \n

" -> \"

\ -> \\

- スクリプトの最大バイト数は1Mバイトです。それ以上のサイズは動作サポート外となります。

また、文字数が32767文字を超える場合、JD Assistの定義編集ツールで正しく表示できませんのでご注意ください。これは、Excelのセルに表示可能な最大文字数が32767文字であるためです。

- デフォルト値

なし

■投入キュー

ジョブを投入するキューを指定します。

- キー

queue

- バリユー

- フォーマット

フォーマットは以下のとおりです。マシン名は必ず入れるようにしてください。

<キュー名>@<マシン名>

- キュー名

半角英数字、アンダーラインのみ指定可能です。また、最初の文字を数字にすることはできません。

最大バイト数は15バイトです。

- マシン名

1. 数値のみの名前は使用できません。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

3. 最大バイト数は63バイトです。

- デフォルト値

なし

■キュー内優先度

キュー内でのジョブの優先度を指定できます。値が大きいほど優先されます。

- キー

priority

- バリユー

- 設定範囲

0-63

- デフォルト値

なし

■ジョブ実行ユーザ

ジョブを実行するユーザを指定します。本パラメータを無指定にした場合は、ジョブネットワークの所有者が実行するユーザになります。

- キー

exec_username

- バリユー

- 文字制限

スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

- デフォルト値

なし

■コメント

単位ジョブに設定するコメントを指定します。

■ キー

comment

■ バリュー

- ・ 最大バイト数は256バイトです。

- ・ 文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

^#\$() [] { } \ | < > " & '

- ・ デフォルト値

なし

- ・ 互換性

Definition 5.0以降

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-ナイス値

Linuxのナイス値を設定します。

■ キー

niceval

■ バリュー

- ・ 設定範囲

-127-+127

- ・ デフォルト値

なし

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-CPU時間

利用できるCPU時間を設定します。

■ キー

pcpu_max

■ バリュー

- ・ 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-9999 "second"

0-9999 "minute"

0-9999 "hour"

0-9999 "day"

- デフォルト値

no

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-メモリサイズ

利用できるメモリサイズを設定します。

- キー

pmem_max

- バリユー

- 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- デフォルト値

no

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-永久ファイルサイズ

利用できる永久ファイルサイズを設定します。

- キー

perm_max

- バリユー

- 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- デフォルト値

no

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-データセグメントサイズ

利用できるデータセグメントサイズを設定します。

- キー

dseg_max

- バリユー

- 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- デフォルト値

no

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-スタックサイズ

利用できるスタックサイズを設定します。

- キー

sseg_max

- バリユー

- 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- デフォルト値

no

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-コアファイルサイズ

出力可能なコアファイルサイズを設定します。

- キー

core_max

- バリユー

- ・ 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- ・ デフォルト値

no

■標準出力先

標準出力の出力先ファイル名です。

- キー

stdout

- バリユー

- ・ 文字制限

以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<>?[\\]^_{|}~

最大バイト数は112バイトです。

- ・ デフォルト値

なし

■標準エラー出力先

標準エラー出力の出力先ファイル名です。

- キー

stderr

- バリユー

- ・ 文字制限

以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[^\`{|}~

最大バイト数は112バイトです。

- デフォルト値

なし

■変数継承

このジョブで指定した環境変数を次のジョブにどのように引き継ぐかを指定します。

- キー

exportv

- バリユー

- 設定範囲

"n" - 「OFF」

"o" - 「標準出力」

"e" - 「標準エラー出力」

- デフォルト値

n

■クリティカルポイント警告-警告動作の有無

onの場合、クリティカルポイント警告機能が有効になります。

- キー

critpt_warn

- バリユー

- 設定範囲

"on"

"off"

- デフォルト値

off

■クリティカルポイント警告-検査箇所

検査の実行点を指定します。critpt_warnがonの場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_at

- バリユー

- 設定範囲

"start" - 「実行開始点」

"end" - 「実行終了点」

"both" - 「すべて」

- デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■クリティカルポイント警告-実行開始点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。critpt_atが「start」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_timeS

- バリユー

- フォーマット

①絶対時刻(Definition 9.0以前)

00:00~23:59

①絶対時刻(Definition 10.0以降)

00:00~99:59

②相対時間

+00:00~+23:59

+000:00~+999:59

- デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■クリティカルポイント警告-実行開始点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。critpt_atが「start」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_actionS

- バリユー

- 設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"hold" - 「保留」

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■クリティカルポイント警告-実行終了点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。critpt_atが「end」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_timeE

- バリュー

- ・ フォーマット

①絶対時刻(Definition 9.0以前)

00:00～23:59

①絶対時刻(Definition 10.0以降)

00:00～99:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■クリティカルポイント警告-実行終了点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。critpt_atが「end」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_actionE

- バリュー

- ・ 設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"forcestop" - 「強制停止」

"hold" - 「保留」

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■スクリプト実行用シェルコマンド

バッチリクエストを実行するシェルを絶対パスで指定します。

■ キー

shell

■ バリユー

・ 文字制限

最大バイト数は260バイトです。

以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[]^`{|}~

・ デフォルト値

なし

■ リスタート

システム再起動時にジョブが自動的に再実行されるかどうかを指定します。

■ キー

restart

■ バリユー

・ 設定範囲

"on" - 「ENABLE」

"off" - 「DISABLE」

・ デフォルト値

on

■ 終了コード-正常終了コード値

正常終了とみなす終了コードの範囲を指定します。この指定に従い、ジョブの実行結果を判定します。正常終了コードにも警告終了コードにもマッチしない終了コードは異常終了となります。終了コードの指定には複数値(区切り)や範囲値(-つなぎ)を記述できます。

■ キー

normal_code

■ バリユー

・ 設定範囲

0-255

・ デフォルト値

なし

- ・ 互換性

Definition 3.0以降

■終了コード-警告終了コード値

警告終了とみなす終了コードの範囲を指定します。この指定に従い、ジョブの実行結果を判定します。正常終了コードにも警告終了コードにもマッチしない終了コードは異常終了となります。終了コードの指定には複数値(区切り)や範囲値(-つなぎ)を記述できます。

■ キー

warn_code

■ バリユー

- ・ 設定範囲

0-255

- ・ 設定例

0

0,3

0,3-7,10

- ・ デフォルト値

なし

- ・ 互換性

Definition 3.0以降

■終了コード-警告終了コード開始値

警告終了の有無と、警告終了とみなす終了コードの開始値を指定します。この値より小さい数値が正常終了とみなされます。この値は「エラー終了コード開始値」より、小さい値を設定する必要があります。警告終了を指定しない場合は本パラメータは不要です。

■ キー

warncond

■ バリユー

- ・ 設定範囲

1-254

- ・ デフォルト値

なし

- ・ 互換性

Definition 3.0以降では、本パラメータではなくnormal_code,warn_code/パラメータをご使用ください。normal_cond,warn_condと本パラメータの記述を混在させないでください。

■終了コード-エラー終了コード開始値

エラー終了とみなす終了コードの開始値を指定します。「警告終了コード開始値」を設定している場合は、その値より大きい値を指定します。

■ キー

errcond

■ バリユー

・ 設定範囲

0-254

・ デフォルト値

なし

・ 互換性

Definition 3.0以降では、本パラメータではなくnormal_code,warn_code/パラメータをご使用ください。normal_cond,warn_condと本パラメータの記述を混在させないでください。

■予想実行時間-指定方法

予想実行時間の指定方法を設定します。

■ キー

expflag

■ バリユー

・ 設定範囲

"set" - 「直接指定」 予想実行時間を直接指定します。

"res" - 「前回実績」 正常終了した最近の単位ジョブの実行実績を予想実行時間とします。

・ デフォルト値

res

■予想実行時間-時間

指定方法(expflag)で直接指定(set)を選択した場合に、時間を指定します。単位によって値の設定範囲が異なります。expflagパラメータをsetにした場合、本パラメータは必須です。

■ キー

exptime

■ バリユー

・ 設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" - 「時間」

0-365 "day" - 「日」

- デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■ジョブステップリスタート

マシンダウン時等にスクリプト内のチェックポイントで最後に通過した箇所からジョブを再実行するかどうかを設定します。Linux版のみ有効な機能です。

- キー

jsrflag

- バリュー

- 設定範囲

"on" - 「ENABLE」

"off" - 「DISABLE」

- デフォルト値

off

■超過警告

予想実行時間を過ぎても単位ジョブが終了しない場合に、統合監視サービスやWindows イベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

- キー

etimewarn

- バリユー

- 設定範囲

"on" - 警告メッセージを出力します。

"off" - 警告メッセージを出力しません

- デフォルト値

off

■終了予定時刻超過時

超過警告onの場合に、予想実行時間を過ぎても単位ジョブが終了しない時の動作を設定します。etimewarnパラメータがonの場合に本パラメータは必須です。

- キー

overtime

- バリユー

- 設定範囲

"def" - 「既定」

"cont" - 「停止しない」

"stop" - 「停止する」

"skip" - 「スキップ」

- デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■事前設定

ジョブをあらかじめ保留状態またはスキップ状態としておきます。ジョブネットワークの開始後に保留解除またはスキップ解除操作を行う必要があります。

- キー

inithold

- バリユー

- 設定範囲

"on" - 「保留」

"skip" - 「スキップ」

"off" - 「オフ」

- デフォルト値

off

3.1.6. カレンダ分岐

種別に「CALB」(カレンダ分岐)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■カレンダ名

分岐に使用するカレンダ名を設定します。本パラメータは必須です。

- キー

cal_name

- バリユー

- 文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
2. 最大バイト数は128バイトです。
3. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^`{|}~

3.1.7. 条件分岐

種別に「CONDB」(条件分岐)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■条件

条件分岐の各枝の条件値を設定します。条件は以下のフォーマットで分岐の数(branch_num)だけ記述します。最後は必ず'other'で終わります。本パラメータは必須です。

- キー

cond

- バリユー

- フォーマット

"'条件1','条件2','other'"

- 例

"'1','2','3-4','other'"

3.1.8. 並列分岐

種別に「PARAB」(並列分岐)を選択した時に設定できるパラメータはありません。

3.1.9. OR分岐

種別に「ORB」(OR分岐)を選択した時に設定できるパラメータはありません。

3.1.10. ダイアログ

種別に「DIA」(ダイアログ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■メッセージ

ユーザに問い合わせるメッセージを指定します。

■ キー

message

■ バリユー

- ・ 文字制限(Definition 9.0以降)

改行を含めない1行の最大バイト数は256バイトです。

最大行数は8です。

改行を直接記述することはできません。記述する際にはエスケープシーケンスを使用します。

タブおよび以下の文字は使用できません。

"#\$() ;[\]{}

- ・ 文字制限(Definition 7.0以前)

最大バイト数は256バイトです。

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

"#\$() ;[\]{}

- ・ エスケープシーケンス(Definition 9.0以降)

改行 -> \n

- ・ デフォルト値

Waiting for reply ...

■予想実行時間-指定方法

予想実行時間の指定方法を設定します。

■ キー

expflag

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"set" - 「直接指定」 ジョブネットワークのパラメータの値（"時間"パラメータ）をジョブネットワークの予想実行時間とします。

"res" - 「前回実績」 正常終了した最近のジョブネットワークの実行実績から、ジョブネットワーク全体の予想実行時間を算出します。

- デフォルト値

res

■ 予想実行時間-時間

指定方法(expflag)で直接指定(set)を選択した場合に、時間を指定します。単位によって値の設定範囲が異なります。expflagパラメータでonを指定した場合、本パラメータは必須です。

- キー

exptime

- バリユー

- 設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" - 「時間」

0-365 "day" - 「日」

- デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■ メッセージ拡張

複数行のメッセージに対応した部品であることを示しています。

省略可能です。

- キー

message_extend

- バリユー

1

- 互換性

メッセージ拡張を指定する場合は、Definition 9.0以降である必要があります。

3.1.11. コンティニュー

種別に「CONT」(コンティニュー)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■ 飛び先部品

ジョブネットワークのフロー上の飛び先を指定します。飛び先には、単位ジョブ/ダイアログ/カスタムジョブの名前を指定します。本パラメータは必須です。

■ キー

destination

■ バリユー

・ 文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_{|}~

■ 繰り返し設定

■ キー

repeatcnt

■ バリユー

・ 設定範囲

・ 回数指定

・ 設定範囲

1-99999

・ 時刻指定

・ 絶対時刻

00:00~35:59

・ 相対時刻

+000:00~+999:59

・ 無制限

・ 設定値

0

■ 互換性

時刻指定、または無制限を指定する場合は、Definition 5.0以降である必要があります。

■ 終了ステータス

最大繰り返し回数を超えた場合のステータスを指定します。本パラメータは必須です。

■ キー

finalstatus

- バリユー

- ・ 設定範囲

"estop" - 「エラー停止」

"error" - 「エラー終了」

"done" - 「正常終了」

3.1.12. サブジョブネットワーク

種別に「SJNW」(サブジョブネットワーク)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■環境変数

単位ジョブ実行時に付与される環境変数を設定することができます。環境変数は下記フォーマットで「変数」「値」「コメント」を1行で記述します。複数の変数を設定したい場合は、パラメータを複数行同じフォーマットで記述します。

- キー

envparam

- バリユー

- ・ フォーマット

"変数','値','コメント'"

- ・ サイズ制限

変数名の最大バイト数は51バイトです。

値の最大バイト数は256バイトです。

コメントの最大バイト数は256バイトです。

- ・ エスケープシーケンス

コメントに改行を入れたい場合は以下のエスケープシーケンスを使用します。

\n - 改行 -(コメントのみ)

- ・ 文字制限

タブ、スペース、改行および以下の文字は使用できません。

= #"

- ・ デフォルト値

なし

3.1.13. ジョブ待ち合わせ

種別に「WJOB」(ジョブ待ち合わせ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■待ち合わせ対象

ジョブ待ち合わせ対象部品の部品名を記述します。本パラメータは必須です。

- キー

target

- バリユー

- ・ フォーマット

1. 同じ階層構造上のジョブネットワーク中の単位ジョブを待ち合わせる場合

最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:....:対象単位ジョブ名

2. 他のジョブネットワークおよび他のユーザのジョブネットワーク中の単位ジョブを待ち合わせる場合

:ユーザ名:最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:....:対象単位ジョブ名

- ・ 文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
2. スペース、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_{|}~



エイリアス名が設定されているサブジョブネットワークを指定する場合は、以下のフォーマットで指定してください。

エイリアス名(ジョブネットワーク名)

(例)alias1(subjobnetwork1)

なお、エイリアス名、ジョブネットワーク名について、それぞれ文字制限を満たす必要があります。

3.1.14. ジョブネットワーク待ち合わせ

種別に「WSJNW」(ジョブネットワーク待ち合わせ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■待ち合わせ対象

待ち合わせるサブジョブネットワークの名前を記述します。本パラメータは必須です。

- キー

target

- バリユー

- ・ フォーマット

1. 同じ階層構造上のサブジョブネットワーク部品を待ち合わせる場合

最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:....:対象サブジョブネットワーク名

2. 他のジョブネットワークや他ユーザのジョブネットワークを待ち合わせる場合

:ユーザ名:最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:....:対象サブジョブネットワーク名

- 文字制限

1. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~



エイリアス名が設定されているサブジョブネットワークを指定する場合は、以下のフォーマットで指定してください。

エイリアス名(ジョブネットワーク名)

(例)alias1(subjobnetwork1)

なお、エイリアス名、ジョブネットワーク名について、それぞれ文字制限を満たす必要があります。

3.1.15. 時刻待ち合わせ

種別に「WTIME」(時刻待ち合わせ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■日付(何日後)

待ち合わせる時刻の日付を設定します。0日後から9日後まで選択することができます。

■ キー

days

■ バリュー

- 設定範囲

0-9

■時刻

待ち合わせる時刻を設定します。実行を開始する時刻はジョブネットワークの開始予定時刻から設定された日付の該当する時刻となります。

■ キー

time

■ バリュー

- フォーマット

①絶対時刻

00:00~23:59

②相対時間

+00:00~+23:59

■未到達警報

時刻待ち合わせ部品で指定した時刻を過ぎても、その時刻待ち合わせ部品の実行が開始されていなかった場合に、警報メッセージをイベントログに出力します。

■ キー

not_reach

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"on" - 「有効」

"off" - 「無効」

■ コメント

時刻待ち合わせ部品に設定するコメントを指定します。

■ キー

comment

■ バリユー

- ・ 最大バイト数は256バイトです。

- ・ 文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

^#\$() [] { } \ | < > " & '

- ・ デフォルト値

なし

- ・ 互換性

Definition 5.0以降

3.1.16. ファイル待ち合わせ

種別に「WFILE」（ファイル待ち合わせ）を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■ 他のサーバファイルを待つ-有効/無効

リモートサーバ上のファイルを待ち合わせるかを指定します。本パラメータは必須です。

■ キー

external

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"on" - 「有効」

"off" - 「無効」

■他のサーバファイルを待つ-ホスト名

リモートサーバのホスト名を指定します。external/パラメータをonにした場合に本パラメータは必須となります。

- キー

external_host

- バリユー

- ・ 文字制限

最大バイト数は255バイトです。

スペース、タブ、半角カタカナ、全角文字、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

■ディレクトリ名

待ち合わせ対象が存在するディレクトリの絶対パス名を指定します。

- キー

dir_name

- バリユー

- ・ 文字制限

最大バイト数は229バイトです。

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

■待ち合わせ対象ファイル名またはディレクトリ名

待ち合わせ対象のファイル名またはディレクトリ名を指定します。

- キー

target_name

- バリユー

- ・ 文字制限

最大バイト数は229バイトです。

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

■一致条件

待ち合わせ対象ファイルに対する一致条件を指定します。待ち合わせ条件を満たすファイルが複数存在する場合、待ち合わせ処理は更新時刻が最も新しいファイルに対して行います。

■ キー

match_cond

■ バリユー

・ 設定範囲

"match" - 「一致する」

"contain" - 「を含む」

"begin" - 「から始まる」

■ 通過条件

待ち合わせを終了する条件を指定します。

■ キー

pass_cond

■ バリユー

・ 設定範囲

"e" - 「存在する」

"n" - 「存在しない」

"u" - 「更新」

■ 更新基準時刻

ここで指定した当日の時間以降にファイルの更新があった場合に通過します。pass_condパラメータで「u」を指定した場合、必須パラメータとなります。

■ キー

update_base_time

■ バリユー

・ フォーマット

① 絶対時刻

00:00~23:59

② 相対時間

+00:00~+99:59

■ タイムアウト

ファイル待ち合わせタイムアウト時間を設定します。

■ キー

timeout

■ バリユー

- ・ フォーマット

- ①絶対時刻

- 00:00~23:59

- ②相対時間

- +00:00~+99:59

■環境変数

待ち合わせ条件に一致した待ち合わせ対象ファイル名をJNWの環境変数として登録する際の環境変数名を設定します。

- キー

- envvar

- バリュー

- ・ 文字制限

- 最大バイト数は51バイトです。

- スペース、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

- = #"

- ・ 互換性

- Definition 3.0以降

■予想実行時間-指定方法

予想実行時間の指定方法を設定します。

- キー

- expflag

- バリュー

- ・ 設定範囲

- "set" - 予想実行時間を直接指定します。

- "res" - 「前回実績」 正常終了した最近のファイル待ちの実行実績を予想実行時間とします。

■予想実行時間-時間

指定方法(expflag)で直接指定(set)を選択した場合に、時間を指定します。単位によって値の設定範囲が異なります。expflagパラメータにsetを指定した場合に必須パラメータとなります。

- キー

- exptime

- バリュー

- ・ 設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" - 「時間」

0-365 "day" - 「日」

■コメント

ファイル待ち合わせ部品に設定するコメントを指定します。

■ キー

comment

■ バリ्यू

- ・ 最大バイト数は256バイトです。

- ・ 文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

^#\$(\[\]\{\}\|<>"&'

- ・ デフォルト値

なし

- ・ 互換性

Definition 5.0以降

3.1.17. イベント送信

種別に「EVTSND」(イベント送信)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■送信先ホスト名

イベント送信先のホスト名を指定します。本パラメータは必須パラメータです。

■ キー

hostname

■ バリ्यू

- ・ 文字制限

1. 最大バイト数は255バイトです。

2. スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字、および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'(),/;<=>?@[\\]^`{|}~

■イベントID

任意の送信するイベント識別子 (ID) を指定します。本パラメータは必須パラメータです。

■ キー

eventid

■ バリユー

・ 文字制限

1. 最大バイト数は100バイトです。
2. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
3. スペース、タブ、改行、および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'(),/,:;<=>?@[\\]^`{|}~

■ メッセージ

送信先に送るメッセージを指定します。

■ キー

message

■ バリユー

・ 文字制限

1. 最大バイト数は40バイトです。
2. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
3. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'(),/,:;<=>?@[\\]^`{|}~

■ イベント送信範囲指定

単一：同じイベントIDでイベント待ち状態となった部品の内、最初に起動したものに対してイベントを通知します。すべて：同じイベントIDでイベント待ち状態となっている部品すべてにイベントを通知します。

■ キー

eventrange

■ バリユー

・ 設定範囲

"only" - 「単一」

"all" - 「すべて」

■ 受信確認-確認の有無

onの場合、送信先でイベント受信が行われるまで待ち合わせを行います。指定した期間中に受信されない場合、タイムアウトしエラー終了状態になります。 offの場合、送信先でのイベント受信の有無にかかわらず、待ち合わせを行いません。

■ キー

waitflag

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"on" - 「確認を行う」

"off" - 「確認を行わない」

■ 受信確認-タイムアウト

受信の待ち合わせタイムアウト時間を設定します。 設定なしの場合は、無限に待ち合わせます。

■ キー

waittime

■ バリユー

- ・ フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+99:59

■ イベント有効期間-期間の設定

onの場合、イベントは送信先が起動するまで待ち合わせをします。送信先に該当するイベント受信部品が起動していない場合、指定した時間までイベントの保持を行います。指定してある時間内に該当するイベント受信部品が起動された場合、その時点でイベントの保持を終了します。 offの場合、送信先が起動するまで待ち合わせをせず、送信先でイベントの保持を行いません。

■ キー

holdflag

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"on"

"off"

■ イベント有効期間-タイムアウト

受信の待ち合わせタイムアウト時間を設定します。

■ キー

holdtime

■ バリユー

- ・ フォーマット

①絶対時刻

00:00～23:59

②相対時間

+00:00～+99:59

■コメント

イベント送信部品に設定するコメントを指定します。

■ キー

comment

■ バリュー

- ・ 最大バイト数は256バイトです。

- ・ 文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

^#\$() [] { } \ | < > " ' &

- ・ デフォルト値

なし

- ・ 互換性

Definition 5.0以降

3.1.18. イベント受信

種別に「EVTRCV」(イベント受信)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■正常終了-終了コード

正常終了コードを設定します。

■ キー

normal_exit_value

■ バリュー

- ・ 設定範囲

0-255

■正常終了-条件

正常終了する条件を設定します。本パラメータは複数記述でき、最低ひとつは必須です。

■ キー

normal_cond

■ バリュー

- ・ フォーマット

フォーマットは以下の通りです。イベントIDと一致条件は任意の回数、最大5回まで繰り返すことができます。

ひとつの条件はかならず1行で書いてください。複数の条件を記載したい場合は、同じパラメータを複数行記述します。条件は最大10件まで記述可能です。

"<条件名>','<送信元ホスト名>','<イベントID 1>','<一致条件 1>','<イベントID 2>','<一致条件 2>', ..."

- ・ 設定項目

1. 条件名

条件の名前です。文字制限は次のとおりです。

- a. 最大40バイトです。
- b. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_{|}~

2. 送信元ホスト名

イベント送信元のホスト名を指定します。文字制限は以下のとおりです。

- a. 最大バイト数は255バイトです。
- b. スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_{|}~

3. イベントID

任意の受信するイベントの識別子 (ID) を指定します。文字制限は以下のとおりです。

- a. 最大バイト数は100バイトです。
- b. 最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。
- c. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_{|}~

4. 一致条件

IDの合致条件としては"0"「から始まる」、 "1"「を含む」、 "2"「一致する」を選択することができます。

- ・ 条件の例

条件名が「condition1」、送信元ホスト名が「test_host」でイベントIDが「id_01」でその一致条件が「から始まる」、もう一つのイベントIDが「id_02」でその一致条件が「を含む」の場合。

"condition1','test_host','id_01','0','id_02','1'"

■ 異常終了-終了コード

異常終了コードを設定します。

- キー

error_exit_value

■ バリユー

- ・ 設定範囲

0-255

■ 異常終了-条件

異常終了する条件を設定します。

■ キー

error_cond

■ バリユー

- ・ フォーマット

フォーマットは以下の通りです。イベントIDと一致条件は任意の回数、最大5回まで繰り返すことができます。ひとつの条件はかならず1行で書いてください。複数の条件を指定したい場合は、同じパラメータを複数行記述します。条件は最大10件まで記述可能です。

"<条件名>','<送信元ホスト名>','<イベントID 1>','<一致条件 1>','<イベントID 2>','<一致条件 2>',' ..."

- ・ 設定項目

1. 条件名

条件の名前です。文字制限は次のとおりです。

- 最大40バイトです。
- スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

2. 送信元ホスト名

イベント送信元のホスト名を指定します。文字制限は以下のとおりです。

- 最大バイト数は255バイトです。
- スペース、タブ、改行、半角カタカナ、全角文字および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

3. イベントID

任意の受信するイベントの識別子 (ID) を指定します。文字制限は以下のとおりです。

- 最大バイト数は100バイトです。
- 最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。
- スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

4. 一致条件

IDの合致条件としては"0"「から始まる」、 "1"「を含む」、 "2"「一致する」を選択することができます。

- 条件の例

条件名が「condition1」、送信元ホスト名が「test_host」でイベントIDが「id_01」でその一致条件が「から始まる」、もう一つのイベントIDが「id_02」でその一致条件が「を含む」の場合。

```
"condition1','test_host','id_01','0',','id_02','1"
```

■コメント

イベント受信部品に設定するコメントを指定します。

- キー

comment

- バリユー

- ・ 最大バイト数は256バイトです。

- ・ 文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

```
^#$( ) [ ] { } \ | < > " & '
```

- ・ デフォルト値

なし

- ・ 互換性

Definition 5.0以降

■受信タイムアウト-タイムアウトの有無

onの場合、イベントを受け付けるまでの待ち合わせをします。設定してある期間受信待ち合わせを行い受信できた場合には、正常終了状態になります。指定した期間中にイベントが受信できない場合、タイムアウトしエラー終了状態になります。

offの場合、イベントの即時受信を行います。受信できた場合も受信できなかった場合も正常終了状態になります。

- キー

waitflag

- バリユー

- ・ 設定範囲

"on"

"off"

■受信タイムアウト-タイムアウト

待ち合わせするときのタイムアウト時間を設定します。設定なしの場合は、無限に待ち合わせます。

- キー

waittime

- バリュー

- ・ 設定範囲

- ①絶対時刻

00:00～23:59

- ②相対時間

+00:00～+23:59

■環境変数

受信したイベントメッセージをJNWの環境変数として登録する際の環境変数名を設定します。

- キー

envvar

- バリュー

- ・ 文字制限

最大バイト数は51バイトです。

スペース、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

= #"

- ・ 互換性

Definition 3.0以降

3.1.19. カスタムジョブ

カスタムジョブ部品は、カスタムジョブテンプレートのJDFファイルに設定済みのパラメータを使用して作成します。ただし、以下の必須パラメータはカスタムジョブテンプレートから変更または追加が必要です。

パラメータ	差異
id	カスタムジョブテンプレートには存在しません。 「3.1.1 IDと種別」 を参照の上設定してください。
type	カスタムジョブテンプレートでは"CUSTOMJOB_TEMPLATE"が設定されています。"CUSTOMJOB"に変更してください。
name	カスタムジョブテンプレートではテンプレート名が設定されています。 「3.1.2 部品共通設定」 を参照の上設定してください。
pre_parts	カスタムジョブテンプレートには存在しません。 「3.1.2 部品共通設定」 を参照の上設定してください。
template_name	カスタムジョブテンプレートには存在しません。カスタムジョブテンプレートの"name"パラメータの値を指定してください。

種別に「CUSTOMJOB」(カスタムジョブ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■アイコン

カスタムジョブ部品の表示アイコンを指定します。

- キー

icon

- バリュー

- ・ 設定範囲

"Triangle"

"Hexagon"

"Pentagon"

"Diamond"

"Ellipse"

"Wave"

"Star"

"Cloud"

"Cube"

"Cylinder"

- ・ 互換性

Definition 5.0以降

- テンプレート名

使用したカスタムジョブテンプレートの名称を記述します。

- キー

template_name

- バリュー

カスタムジョブテンプレートのパラメータ"name"に設定されている値を使用してください。

- 互換性

Definition 5.0以降

- テンプレートバージョン

使用したカスタムジョブテンプレートのバージョンを記述します。

- キー

template_ver

- バリュー

カスタムジョブテンプレートに設定されている値を使用してください。

■ 互換性

Definition 5.0以降

■ カスタム変数

カスタムジョブのスクリプト内部に埋め込む変数を記述します

■ キー

scriptVAR

■ バリユー

・ フォーマット

フォーマットは以下のとおりです。

'<変数名>','<値>','<コメント>'

- ・ カスタムジョブ部品では、<値>のみ変更可能です。<変数名>および<コメント>は、カスタムジョブテンプレートで設定された値をそのまま使用してください。

- ・ <値>(Definition 9.0以降)

- ・ 最大バイト数は300バイトです。
- ・ タブ、特殊文字は使用できません。

以下の文字を直接記述することはできません。これらを記述する際には後述のエスケープシーケンスを使用します。

' " \

- ・ <値>(Definition 9.0以前)

- ・ 最大バイト数は256バイトです。
- ・ スペース、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

' "

- ・ <値>のエスケープシーケンス(Definition 9.0以降)

' -> \q

" -> \w

\ -> \b

■ 互換性

Definition 5.0以降



「値」について、jdh_convコマンドでは拡張カスタムジョブ部品のカスタムパラメータ固有の制限値のチェックは行われません。制限値以外の値を設定した拡張カスタムジョブ部品をアップロードした場合は、テキスト定義機能でJPFファイルを修正し再度アップロードするか、CL/Winのカスタムパラメータ設定画面で値を修正してください。

拡張カスタムジョブ部品のカスタムパラメータの詳細は<拡張カスタムジョブ部品利用の手引き>を参照してください。

■スクリプト

カスタムジョブのスクリプトを記述します。

■ キー

script

■ バリュー

・ 文字制限

改行、(")ダブルクォート、(\)円マーク(バックスラッシュ)を直接記述することはできません。これらを記述するには下記のエスケープシーケンスを使用します。

・ エスケープシーケンス

改行 -> \n

" -> \"

\ -> \\

・ スクリプトの最大バイト数は1Mバイトです。それ以上のサイズは動作サポート外となります。

また、文字数が32767文字を超える場合、JD Assistの定義編集ツールで正しく表示できませんのでご注意ください。これは、Excelのセルに表示可能な最大文字数が32767文字であるためです。

・ デフォルト値

なし

■ 互換性

Definition 5.0以降

■投入キュー

ジョブを投入するキューを指定します。

■ キー

queue

■ バリュー

・ フォーマット

フォーマットは以下のとおりです。マシン名は必ず入れるようにしてください。

<キュー名>@<マシン名>

・ キュー名

半角英数字、アンダーラインのみ指定可能です。また、最初の文字を数字にすることはできません。

最大バイト数は15バイトです。

- ・ マシン名

1. 数値のみの名前は使用できません。
2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

3. 最大バイト数は63バイトです。

- ・ デフォルト値

なし

- 互換性

Definition 5.0以降

■キュー内優先度

キュー内でのジョブの優先度を指定できます。値が大きいほど優先されます。

- キー

priority

- バリユー

- ・ 設定範囲

0-63

- ・ デフォルト値

なし

- 互換性

Definition 5.0以降

■ジョブ実行ユーザ

ジョブを実行するユーザを指定します。本パラメータを無指定にした場合は、ジョブネットワークの所有者が実行するユーザになります。

- キー

exec_username

- バリユー

- ・ 文字制限

スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

- ・ デフォルト値

なし

■ 互換性

Definition 5.0以降

■ コメント

カスタムジョブに設定するコメントを指定します。

■ キー

comment

■ バリュー

- ・ 最大バイト数は256バイトです。

- ・ 文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

`^#$() [] { } \ | < > " & '`

- ・ デフォルト値

なし

- ・ 互換性

Definition 5.0以降

■ Linuxパラメータ(プロセス単位)-ナイス値

Linuxのナイス値を設定します。

■ キー

niceval

■ バリュー

- ・ 設定範囲

-127-+127

- ・ デフォルト値

なし

■ 互換性

Definition 5.0以降

■ Linuxパラメータ(プロセス単位)-CPU時間

利用できるCPU時間を設定します。

■ キー

pcpu_max

■ バリユー

• 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-9999 "second"

0-9999 "minute"

0-9999 "hour"

0-9999 "day"

• デフォルト値

no

■ 互換性

Definition 5.0以降

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-メモリサイズ

利用できるメモリサイズを設定します。

■ キー

pmem_max

■ バリユー

• 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

• デフォルト値

no

■ 互換性

Definition 5.0以降

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-永久ファイルサイズ

利用できる永久ファイルサイズを設定します。

- キー

perm_max

- バリユー

- ・ 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- ・ デフォルト値

no

- 互換性

Definition 5.0以降

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-データセグメントサイズ

利用できるデータセグメントサイズを設定します。

- キー

dseg_max

- バリユー

- ・ 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- ・ デフォルト値

no

- 互換性

Definition 5.0以降

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-スタックサイズ

利用できるスタックサイズを設定します。

■ キー

sseg_max

■ バリユー

・ 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

・ デフォルト値

no

■ 互換性

Definition 5.0以降

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-コアファイルサイズ

出力可能なコアファイルサイズを設定します。

■ キー

core_max

■ バリユー

・ 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

・ デフォルト値

no

■ 互換性

Definition 5.0以降

■標準出力先

標準出力の出力先ファイル名です。

■ キー

stdout

■ バリユー**・ 文字制限**

以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?[^\`{|}~

最大バイト数は112バイトです。

・ デフォルト値

なし

■ 互換性

Definition 5.0以降

■標準エラー出力先

標準エラー出力の出力先ファイル名です。

■ キー

stderr

■ バリユー**・ 文字制限**

以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?[^\`{|}~

最大バイト数は112バイトです。

・ デフォルト値

なし

■ 互換性

Definition 5.0以降

■変数継承

このジョブで指定した環境変数を次のジョブにどのように引き継ぐかを指定します。

■ キー

exportv

■ バリユー

- 設定範囲

"n" - 「OFF」

"o" - 「標準出力」

"e" - 「標準エラー出力」

- デフォルト値

n

- 互換性

Definition 5.0以降

■クリティカルポイント警告-警告動作の有無

onの場合、クリティカルポイント警告機能が有効になります。

- キー

critpt_warn

- バリユー

- 設定範囲

"on"

"off"

- デフォルト値

off

- 互換性

Definition 5.0以降

■クリティカルポイント警告-検査箇所

検査の実行点を指定します。critpt_warnがonの場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_at

- バリユー

- 設定範囲

"start" - 「実行開始点」

"end" - 「実行終了点」

"both" - 「すべて」

- デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

- 互換性

Definition 5.0以降

- クリティカルポイント 警告-実行開始点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。critpt_atが「start」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_timeS

- バリユー

- ・ フォーマット

- ①絶対時刻(Definition 9.0以前)

- 00:00～23:59

- ①絶対時刻(Definition 10.0以降)

- 00:00～99:59

- ②相対時間

- +00:00～+23:59

- +000:00～+999:59

- ・ デフォルト値

- 本パラメータは必須時以外は無視されます。

- 互換性

Definition 5.0以降

- クリティカルポイント 警告-実行開始点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。critpt_atが「start」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_actionS

- バリユー

- ・ 設定範囲

- "off" - 「なし」

- "skip" - 「スキップ」

- "hold" - 「保留」

- ・ デフォルト値

- 本パラメータは必須時以外は無視されます。

- 互換性

Definition 5.0以降

- クリティカルポイント警告-実行終了点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。critpt_atが「end」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_timeE

- バリュー

- ・ フォーマット

- ①絶対時刻(Definition 9.0以前)

- 00:00～23:59

- ①絶対時刻(Definition 10.0以降)

- 00:00～99:59

- ②相対時間

- +00:00～+23:59

- +000:00～+999:59

- ・ デフォルト値

- 本パラメータは必須時以外は無視されます。

- 互換性

Definition 5.0以降

- クリティカルポイント警告-実行終了点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。critpt_atが「end」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_actionE

- バリュー

- ・ 設定範囲

- "off" - 「なし」

- "skip" - 「スキップ」

- "forcestop" - 「強制停止」

- "hold" - 「保留」

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■ 互換性

Definition 5.0以降

■ スクリプト実行用シェルコマンド

バッチリクエストを実行するシェルを絶対パスで指定します。

■ キー

shell

■ バリユー

・ 文字制限

最大バイト数は260バイトです。

以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

・ デフォルト値

なし

■ 互換性

Definition 5.0以降

■ リスタート

システム再起動時にジョブが自動的に再実行されるかどうかを指定します。

■ キー

restart

■ バリユー

・ 設定範囲

"on" - 「ENABLE」

"off" - 「DISABLE」

・ デフォルト値

on

■ 互換性

Definition 5.0以降

■ 終了コード-正常終了コード値

正常終了とみなす終了コードの範囲を指定します。この指定に従い、ジョブの実行結果を判定します。正常終了コードにも深谷終了コードにもマッチしない終了コードは異常終了となります。終了コードの指定には複数值(区切り)や範囲値(-つなぎ)を記述できます。

■ キー

normal_code

■ バリユー

- ・ 設定範囲

0-255

- ・ デフォルト値

なし

■ 互換性

Definition 5.0以降

■ 終了コード-警告終了コード値

警告終了とみなす終了コードの範囲を指定します。この指定に従い、ジョブの実行結果を判定します。正常終了コードにも異常終了コードにもマッチしない終了コードは異常終了となります。終了コードの指定には複数値(区切り)や範囲値(-つなぎ)を記述できます。

■ キー

warn_code

■ バリユー

- ・ 設定範囲

0-255

- ・ 設定例

0

0,3

0,3-7,10

- ・ デフォルト値

なし

■ 互換性

Definition 5.0以降

■ 予想実行時間-指定方法

予想実行時間の指定方法を設定します。

■ キー

expflag

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"set" - 「直接指定」 予想実行時間を直接指定します。

"res" - 「前回実績」 正常終了した最近のカスタムジョブの実行実績を予想実行時間とします。

- デフォルト値

res

- 互換性

Definition 5.0以降

■ 予想実行時間-時間

指定方法(expflag)で直接指定(set)を選択した場合に、時間を指定します。単位によって値の設定範囲が異なります。expflagパラメータをsetにした場合、本パラメータは必須です。

- キー

exptime

- バリユー

- 設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" - 「時間」

0-365 "day" - 「日」

- デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

- 互換性

Definition 5.0以降

■ ジョブステップリスタート

マシンダウン時等にスクリプト内のチェックポイントで最後に通過した箇所からジョブを再実行するかどうかを設定します。Linux版のみ有効な機能です。

- キー

jsrflag

- バリユー

- 設定範囲

"on" - 「ENABLE」

"off" - 「DISABLE」

- デフォルト値

off

- 互換性

Definition 5.0以降

- 超過警告

予想実行時間を過ぎてもカスタムジョブが終了しない場合に、統合監視サービスやWindows イベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

- キー

etimewarn

- バリュー

- ・ 設定範囲

"on" - 警告メッセージを出力します。

"off" - 警告メッセージを出力しません

- ・ デフォルト値

off

- 互換性

Definition 5.0以降

- 終了予定時刻超過時

超過警告onの場合に、予想実行時間を過ぎてもカスタムジョブが終了しない時の動作を設定します。etimewarnパラメータがonの場合に本パラメータは必須です。

- キー

overtime

- バリュー

- ・ 設定範囲

"def" - 「既定」

"cont" - 「停止しない」

"stop" - 「停止する」

"skip" - 「スキップ」

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

- 互換性

Definition 5.0以降

- 事前設定

ジョブをあらかじめ保留状態またはスキップ状態としておきます。ジョブネットワークの開始後に保留解除またはスキップ解除操作を行う必要があります。

- キー

inithold

- バリユー

- ・ 設定範囲

"on" - 「保留」

"skip" - 「スキップ」

"off" - 「オフ」

- ・ デフォルト値

off

- 互換性

Definition 5.0以降

3.1.20. グループ

種別に「JNWGRP」(グループ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■ 所属グループ

グループの所属グループを指定します。フォーマットは以下のように「.」で始めてグループ階層を「.」で区切って並べます。

- キー

group

- バリユー

- ・ フォーマット

.<group1>.<group2>.<group3>

- ・ 文字制限

1. 各グループ階層 (<group1>、<group2>の部分) の最大バイト数は40バイトです。

2. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。

3. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

- ・ デフォルト値

なし

- ・ 互換性

Definition 5.0以降

■コメント

グループに設定するコメントを指定します。

■ キー

comment

■ バリュー

- ・ 最大バイト数は256バイトです。

- ・ 文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

^#\$(\[\]\{\}\|\<>"'

- ・ デフォルト値

なし

- ・ 互換性

Definition 5.0以降

3.2. jnwファイルのサンプル

以下にjnwファイルのサンプルを掲載します

```
#これはjnwタイプのJDFサンプルです
version="1.0"
type="jnw"
%%
type="JNW"
id="1"
sched=""
estop="def"
expflag="cal"
exptime="0 second"
comment=""
etimewarn="off"
queue=""
run_limit=""
run_limit_wait="wait"
overtime="def"
erpautostart="def"
simula="off"
initflag="off"
critpt_timeS="00:00"
critpt_timeE="00:00"
critpt_at="start"
critpt_warn="off"
critpt_actionS="off"
critpt_actionE="off"
sendmail="off"
mailto=""
mailcc=""
mailfrom=""
mailsubject=""
mailmsg=""
mailsmtpserver=""
basetime="00:00"
name="jnw2"
group=".test"
---
type="PARAB"
id="2"
branch_num="2"
pre_parts="1"
---
type="WFILE"
id="3"
dir_name="/test"
target_name="test"
pass_cond="e"
expflag="res"
exptime="0 second"
external="off"
envvar=""
match_cond="match"
branch_id="1"
```

```
pre_parts="2"
---
type="DIA"
id="4"
message="Waiting for reply ..."
expflag="res"
exptime="0 second"
name="DIA1"
branch_id="2"
pre_parts="2"
---
type="JNW"
id="5"
sched=""
estop="def"
expflag="cal"
exptime="0 second"
comment=""
etimewarn="off"
queue=""
run_limit=""
run_limit_wait="wait"
overtime="def"
erpautostart="def"
simula="off"
initflag="off"
critpt_timeS="00:00"
critpt_timeE="00:00"
critpt_at="start"
critpt_warn="off"
critpt_actionS="off"
critpt_actionE="off"
sendmail="off"
mailto=""
mailcc=""
mailfrom=""
mailsubject=""
mailmsg=""
mailsmtpserver=""
basetime="00:00"
name="jnw1"
group=".test"
---
type="UJOB"
id="6"
priority=""
core_max="no"
dseg_max="no"
perm_max="no"
pmem_max="no"
sseg_max="no"
pcpu_max="no"
niceval=""
shell=""
stdout=""
stderr=""
```

```
restart="on"
queue=""
expflag="res"
exptime="0 second"
jsrflag="off"
normal_code="0"
warn_code=""
etimewarn="off"
inithold="off"
exportv="n"
overtime="def"
critpt_timeS="00:00"
critpt_timeE="00:00"
critpt_at="start"
critpt_warn="off"
critpt_actionS="off"
critpt_actionE="off"
exec_username=""
name="JOB1"
pre_parts="5"
---
type="SJNW"
id="7"
name="jnw2"
pre_parts="6"
---
```

4. schedフォーマットタイプ

本章ではJDFフォーマットのschedフォーマットタイプについて説明します。

4.1. schedフォーマットタイプについて

schedフォーマットタイプは、スケジュール定義を作成するためのフォーマットです。ヘッダセクションのtypeパラメータには"sched"を指定します。schedフォーマットは以下のようにスケジュールひとつに対して複数のルールを関連付ける形で作成します。

ルールを二つ持つスケジュールの作成例

```
type="SCHED"
id="1"
name="test"
group=""
enable="on"
comment=""
---
type="RULE"
id="2"
relation="1"
rule_type="special"
regist="1"
year="2011"
month="10"
day="28"
s_hour="05"
s_min="00"
---
type="RULE"
id="3"
relation="1"
rule_type="weekly"
regist="1"
week="5"
pause="NONE"
relative="0"
s_hour="00"
s_min="00"
start_year="2011"
start_month="10"
start_day="28"
end_year="2012"
end_month="12"
end_day="31"
```

スケジュールにはrelationパラメータでルールを関連づけます。ルールはスケジュールに対して複数関連づけることができます。ルールオブジェクトに記載が必須なパラメータはルールタイプ(rule_typeパラメータ)によって異なります。詳細は後述するrule_typeパラメータを参照してください。

ルールの優先順位は記載順序どおりとなります。詳細は後述するrelationパラメータの説明を参照してください。その他、ルールやスケジュールのオブジェクト内のパラメータの記載順序は動作には影響ありません。

パラメータは必須となっているもの以外は省略が可能です。省略された場合は、システムであらかじめ定義されているデフォルト値と解釈されます。また、パラメータのバリューを空("")にした場合も省略されたと解釈されて、デフォルト値が適用されます。

以下に説明する各部品パラメータの定義条件は下記表の通りです。

定義条件	説明
フォーマット	指定された入力形式に従って定義してください。

定義条件	説明
設定範囲	範囲内のパラメータを選択して定義してください。
文字制限	この文字列を定義することはできません。
互換性	パラメータがサポートされたJPFバージョンが記載しています。例として「Definition 3.0以降」となっている場合はそのパラメータは「Definition 3.0」以降のバージョンのJPFで使用可能です。互換性の記載がないものは「Definition 1.0」からサポートされています。

4.1.1. 共通設定

ひとつのオブジェクトに必ず設定するパラメータは次の通りです。

■ID

ファイル内で一意なIDを指定します。本パラメータは全オブジェクトで必須です。

■ キー

id

■ バリユー

- ・ 設定範囲

0-999999

■種別

スケジュールカールールを表す種別を指定します。本パラメータは全オブジェクトで必須です。

■ キー

type

■ バリユー

項目名	説明
SCHED	スケジュール
RULE	ルール

4.1.2. スケジュール設定

種別に「SCHED」(スケジュール)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■名前

スケジュールの名前を設定します。本パラメータはスケジュールに必須です。

■ キー

name

■ バリユー

- ・ 文字制限

- ・ 最大バイト数は128バイトです。

- ・ 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
- ・ スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,/:;<=>?@[\\]^_`{|}~

■適用カレンダー

適用する稼働日カレンダーの名前を指定します。

■ キー

apply_cal

■ バリユー

- ・ 文字制限
 - ・ 最大バイト数は128バイトです。
 - ・ 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
 - ・ スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,/:;<=>?@[\\]^_`{|}~

■所属グループ

所属するスケジュールグループを指定します。

■ キー

group

■ バリユー

- ・ フォーマット

グループ階層の区切り文字は「.」となります。グループ階層は最大で五階層まで指定可能です。

(例).group01.group02.group03

- ・ 文字制限
 - ・ 最大バイト数は40バイトです。
 - ・ 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、2バイト文字しか使用できません。
 - ・ スペース、タブ、改行、特殊文字および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

- ・ 互換性

Definition 3.0以降

■有効/無効

スケジュールの有効/無効を指定します。

■ キー

enable

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"on" - 有効

"off" - 無効

- ・ 互換性

Definition 3.0以降

■ コメント

スケジュールのコメントを指定します。

■ キー

comment

■ バリユー

- ・ 文字制限

- ・ 最大バイト数は256バイトです。

- ・ タブ、改行および以下の文字は使用できません。

^#\$() [] { } \ | < > " & ' '

- ・ 互換性

Definition 3.0以降

4.1.3. ルール設定

種別に「RULE」（ルール）を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■ 関連ID

種別がルールの場合、関係付けるスケジュールのIDを指定します。本パラメータは全ルールに必須です。

関連IDが同じルール同士では、記載順序が上のルールの方が先に適用されます。適用順序を変えたい場合はルールの記載場所を入れ替えて調整してください。

■ キー

relation

■ バリユー

- ・ 設定範囲

0-999999

■ 登録/除外

スケジュールルールの登録または除外を設定します。本パラメータは全ルールに必須です。

登録：指定したルールの日時をジョブ実行予定日としてスケジュールに追加することを意味します。

除外：指定したルールの日時をジョブ実行しない日としてスケジュールから削除することを意味します。

- キー

regist

- バリュー

- ・ 設定範囲

1 - 「登録」

0 - 「除外」

■ルール種別

ルールの種別を設定します。本パラメータは全ルールに必須です。

- キー

rule_type

- バリュー

- ・ 種別

毎日 - 毎日実行するルールです。

毎週 - 毎週実行するルールです。

毎月(日付) - 毎月、日付指定で実行するルールです。

毎月(曜日) - 毎月、曜日指定で実行するルールです。

毎年(日付) - 毎年、日付指定で実行するルールです。

毎年(曜日) - 毎年、曜日指定で実行するルールです。

特定日 - 指定した日付に実行するルールです。

特殊 - 月初週末に実行するルールです。

指定日間隔 - 指定日の周期で実行するルールです。

- ・ 設定範囲

"daily" - 「毎日」

"weekly" - 「毎週」

"monthly" - 「毎月(日付)」

"thmonthly" - 「毎月(曜日)」

"yearly" - 「毎年(日付)」

"thyearly" - 「毎年(曜日)」

"special " - 「特定日」

"extra" - 「特殊」

"xday" - 「指定日間隔」

- ・ タイプ毎の必須/任意パラメータ

ルールタイプ	必須パラメータ	任意パラメータ
daily	s_hour, s_min, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	period, e_hour, e_min
weekly	week, s_hour, s_min, pause, relative, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	period, e_hour, e_min
monthly	day, s_hour, s_min, pause, relative, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	period, e_hour, e_min
thmonthly	ordinal, week, s_hour, s_min, pause, relative, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	period, e_hour, e_min
yearly	month, day, s_hour, s_min, pause, relative, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	period, e_hour, e_min
thyearly	month, ordinal, week, s_hour, s_min, pause, relative, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	period, e_hour, e_min
special	year, month, day, s_hour, s_min	period, e_hour, e_min
extra	s_hour, s_min, relative, extra, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	period, e_hour, e_min
xday	s_hour, s_min, day_cycle, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	

■日付-年

年を指定します。

- キー

year

- バリユー

- ・ 設定範囲

1997-2037

■日付-月

月を指定します。

- キー

month

- バリユー

- ・ 設定範囲

1-12

■日付-日

日を指定します。毎月(日付) ルールと、毎年(日付)ルールの場合は月末を指定する"LAST"が有効です。

■ キー

day

■ バリユー

- ・ 設定範囲

1-31

"LAST" - (monthlyとyearlyのみ)

■曜日-序数

第n(1,2,3,4,5,最後)週かを指定します。

■ キー

ordinal

■ バリユー

- ・ 設定範囲

1-5

"LAST"

■曜日-曜日

曜日を指定します。

■ キー

week

■ バリユー

- ・ 設定範囲

0 - 日曜日

1 - 月曜日

2 - 火曜日

3 - 水曜日

4 - 木曜日

5 - 金曜日

6 - 土曜日

■時刻-開始時刻-時

開始時間を指定します

- キー

s_hour

- バリュー

- ・ 設定範囲

0-35

■時刻-開始時刻-分

開始分を指定します

- キー

s_min

- バリュー

- ・ 設定範囲

0-59

■時刻-周期

実行する周期を指定します。

- キー

period

- バリュー

- ・ 設定範囲

1-1440 - 「分」

■時刻-終了時刻-時

終了時間を指定します。period/パラメータを指定した場合、必須パラメータになります。

- キー

e_hour

- バリュー

- ・ 設定範囲

0-35

■時刻-終了時刻-分

終了分を指定します。period/パラメータを指定した場合、必須パラメータになります。

- キー

e_min

- バリュー

- ・ 設定範囲

0-59

■ 休止日

指定された実行日が稼働日カレンダーで定義されている休止日にあたる場合に、実行予定日を自動的にシフトするかどうかを指定します。

- キー

pause

- バリユー

- ・ 設定範囲

"BEFORE" - 「前シフト」

"AFTER" - 「後シフト」

"NONE" - 「対象外」

■ 相対

もとの日から稼働日だけを数えて指定日数分ずらした日を指定します。もとの日から未来方向にずらすには+(プラス)、過去方向にずらすには-(マイナス)の日数を指定します。

- キー

relative

- バリユー

- ・ 設定範囲

-31 - 31

■ 周期(日)

指定日間隔の「周期」を設定します。

- キー

day_cycle

- バリユー

- ・ 設定範囲

1 - 365

- ・ 互換性

Definition 3.0以降

■ 特殊

「特殊ルール」を指定した場合、月初週末を選択する必要があります。

- キー

extra

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"firstwe"

■適用期間-開始日-年

適用開始「年」を指定します。

■ キー

start_year

■ バリユー

- ・ 設定範囲

1997-2037

■適用期間-開始日-月

適用開始「月」を指定します。

■ キー

start_month

■ バリユー

- ・ 設定範囲

1-12

■適用期間-開始日-日

適用開始「日」を指定します。

■ キー

start_day

■ バリユー

- ・ 設定範囲

1-31

■適用期間-終了日-年

適用終了「年」を指定します。

■ キー

end_year

■ バリユー

- ・ 設定範囲

1997-2037

■適用期間-終了日-月

適用終了「月」を指定します。

■ キー

end_month

■ バリュー

- ・ 設定範囲

1-12

■適用期間-終了日-日

適用終了「日」を指定します。

■ キー

end_day

■ バリュー

- ・ 設定範囲

1-31

4.2. JDFファイル(schedタイプ)のサンプル

以下にJDFファイル(schedタイプ)のサンプルを掲載します

```
#これはJDFファイル(schedタイプ)のJDFファイルサンプルです
version="1.0"
type="sched"
%%%
type="SCHED"
id="1"
name="sched01"
---
type="RULE"
rule_type="daily"
regist="1"
s_hour="23"
s_min="00"
start_year="2011"
start_month="10"
start_day="18"
end_year="2012"
end_month="12"
end_day="31"
relation="1"
id="2"
---
type="RULE"
rule_type="weekly"
regist="0"
week="0"
pause="NONE"
relative="0"
start_year="2011"
start_month="10"
start_day="18"
end_year="2012"
end_month="12"
end_day="31"
relation="1"
id="3"
---
```

5. trgフォーマットタイプ

本章ではJDFフォーマットのtrgフォーマットタイプについて説明します。

5.1. trgフォーマットタイプについて

trgフォーマットタイプは、起動トリガ定義を作成するためのフォーマットです。ヘッダセクションのtypeパラメータには"trg"を指定します。trgフォーマットは各種起動トリガとその関連情報から構成されます。

trgフォーマットタイプはDefinition 7.0以降で利用可能です。

起動トリガ(テキストログ監視)と監視対象テキストログの定義例

```
type="trg"
version="1.0"
%%
filename="syslog-dummy"
set_env_regexp="off"
trg_type="TEXTLOG"
set_env="on"
use_regexp="off"
keyword="dummy message"
type="TRG"
enable="on"
name="syslog監視"
comment=""
launch="issue登録"
launch="メール通報"
---
encoding="UTF-8"
filepath="/path/to/messages"
type="TARGET_TEXTLOG"
name="syslog-dummy"
rotation="^messages(-\bd{8})? $"
---
```

パラメータは必須となっているもの以外は省略が可能です。省略された場合は、システムであらかじめ定義されているデフォルト値と解釈されます。また、パラメータのバリューを空("")にした場合も省略されたと解釈されて、デフォルト値が適用されます。

以下に説明する各部品パラメータの定義条件は下記表の通りです。

定義条件	説明
フォーマット	指定された入力形式に従って定義してください。
設定範囲	範囲内のパラメータを選択して定義してください。
文字制限	この文字列を定義することはできません。
デフォルト値	省略可能なパラメータのデフォルト値です。「なし」になっているものはJob Directorとして指定しなくても動作可能なものか、空欄として指定されて意味あるものになります。必須なパラメータにはデフォルト値はありません。
互換性	パラメータがサポートされたJPFバージョンが記載しています。例として「Definition 3.0以降」となっている場合はそのパラメータは「Definition 3.0」以降のバージョンのJPFで使用可能です。互換性の記載がないものは「Definition 1.0」からサポートされています。

5.1.1. 共通設定

ひとつのオブジェクトに必ず設定するパラメータは次の通りです。

■種別

起動トリガ、またはその起動トリガが利用する関連情報を表す種別を指定します。本パラメータは全オブジェクトで必須です。

■ キー

type

■ バリユー

項目名	説明
TRG	起動トリガ
TARGET_TEXTLOG	監視対象テキストログ

5.1.2. 起動トリガ設定

種別に「TRG」(起動トリガ)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

5.1.2.1. 共通設定

全ての起動トリガ種別に共通で設定できるパラメータは次の通りです。

■ 名前

起動トリガの名前を設定します。本パラメータは必須です。

■ キー

name

■ バリユー

- ・ 文字制限
 - ・ 最大バイト数は128バイトです。
 - ・ 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。
 - ・ スペース、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

■ 起動トリガ種別

起動トリガの種別を指定します。本パラメータは必須です。

■ キー

trg_type

■ バリユー

項目名	説明
TEXTLOG	テキストログ監視

■ 有効/無効

起動トリガの有効/無効を指定します。

■ キー

enable

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"on" - 有効

"off" - 無効

- ・ デフォルト値

"on"

■ コメント

起動トリガのコメントを指定します。

■ キー

comment

■ バリユー

- ・ 文字制限

- ・ 最大バイト数は256バイトです。

- ・ タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

^#\$() [] { } \ | < > " & '

- ・ デフォルト値

なし

■ 関連JNW

起動トリガを関連付けるジョブネットワークを指定します。複数のジョブネットワークを関連付ける場合、パラメータを複数行同じフォーマットで記述します。

■ キー

launch

■ バリユー

- ・ 文字制限

- ・ 最大バイト数は40バイトです。

- ・ 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。

- ・ スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

+ ! " # \$ % & ' () * , / : ; < = > ? @ [\] ^ ` { | } ~

- ・ デフォルト値

なし

5.1.2.2. テキストログ監視

起動トリガ種別に「TEXTLOG」(テキストログ監視)を指定した場合に設定できるパラメータは次の通りです。

■定義名

監視対象テキストログの名前を設定します。本パラメータは必須です。

■ キー

filename

■ バリユー

・ 文字制限

- ・ 最大バイト数は128バイトです。
- ・ スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

+ ! " # \$ % & ' () * , / : ; < = > ? @ [\] ^ ` { | } ~

■監視キーワード

監視キーワードを設定します。本パラメータは必須です。

■ キー

keyword

■ バリユー

・ 文字制限

- ・ 最大バイト数は256バイトです。
- ・ (")ダブルクォート、(\)円マーク(バックスラッシュ)を直接記述することはできません。これらを記述する際にはエスケープシーケンスを使用します。

・ エスケープシーケンス

" -> \w

\ -> \b

■一致した行を環境変数に設定する

一致した行をジョブネットワークの環境変数に設定します。

■ キー

set_env

■ バリユー

・ 設定範囲

"on" - 設定します

"off" - 設定しません

・ デフォルト値

"on"

■正規表現を利用する

監視キーワードに指定したキーワードを正規表現として処理するかどうかを指定します。本パラメータを"on"に設定する場合、set_env_regexp(正規表現に部分一致した文字列を環境変数に設定する)の設定が必要になります。

■ キー

use_regexp

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"on" - 正規表現として処理します

"off" - 正規表現として処理しません

- ・ デフォルト値

"off"

■部分一致した文字列を環境変数に設定する

正規表現に部分一致した文字列をジョブネットワークの環境変数に設定します。本パラメータを"on"に設定できるのは、use_regexp(正規表現を利用する)が"on"の場合のみです。

■ キー

set_env_regexp

■ バリユー

- ・ 設定範囲

"on" - 設定します

"off" - 設定しません

- ・ デフォルト値

"off"

5.1.3. 監視対象テキストログ

種別に「TARGET_TEXTLOG」(監視対象テキストログ)を指定した場合に設定できるパラメータは次の通りです。

■定義名

監視対象テキストログの名前を設定します。本パラメータは必須です。

■ キー

name

■ バリユー

- ・ 文字制限

- ・ 最大バイト数は128バイトです。
- ・ スペース、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

+ ! " # \$ % & ' () * , / : ; < = > ? @ [\] ^ ` { | } ~

■ファイルパス

監視対象テキストログのファイルパスを絶対パスで指定します。本パラメータは必須です。

■ キー

filepath

■ バリュー

- ・ 文字制限
- ・ 最大バイト数は254バイトです。
- ・ タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

! " # \$ % & ' () * , ; < = > ? [] ^ ` { | } ~

■エンコーディング

監視対象テキストログのファイルエンコーディングを指定します。本パラメータは必須です。

■ キー

encoding

■ バリュー

- ・ ASCII, SHIFT-JIS, EUC, UTF-8

■ローテーションルール

監視対象テキストログのバックアップファイルのローテーションルールを設定します。

■ キー

rotation

■ バリュー

- ・ 文字制限
- ・ 最大バイト数は254バイトです。
- ・ (") ダブルクォート、(\) 円マーク(バックスラッシュ)を直接記述することはできません。これらを記述するにはエスケープシーケンスを使用します。
- ・ エスケープシーケンス

" -> \w

\ -> \b

- ・ デフォルト値

なし

5.2. JDFファイル(trgタイプ)のサンプル

以下にJDFファイル(trgタイプ)のサンプルを掲載します

```
#これはJDFファイル(trgタイプ)のJDFファイルサンプルです
type="trg"
version="1.0"
%%
filename="syslog-dummy"
set_env_regexp="off"
trg_type="TEXTLOG"
set_env="on"
use_regexp="off"
keyword="dummy message"
type="TRG"
enable="on"
name="syslog監視"
comment=""
launch="issue登録"
launch="メール通報"
---
encoding="UTF-8"
filepath="/path/to/messages"
type="TARGET_TEXTLOG"
name="syslog-dummy"
rotation="^messages(-\bd{8})? $"
---
```

6. wkcalフォーマットタイプ

本章ではJDFフォーマットのwkcalフォーマットタイプについて説明します。

6.1. wkcalフォーマットタイプについて

wkcalフォーマットタイプは、稼働日カレンダー定義を作成するためのフォーマットです。ヘッダセクションのtypeパラメータには"wkcal"を指定します。wkcalフォーマットは以下のようにカレンダーひとつに対して複数のルールを関連付ける形で作成します。

ルールを二つ持つカレンダーの作成例

```
type="WKCAL"
id="1"
name="test"
---
type="RULE"
rule_type="special"
regist="1"
year="2011"
month="10"
day="28"
relation="1"
id="2"
---
type="RULE"
rule_type="thyearly"
regist="1"
month="10"
ordinal="1"
week="1"
pause="NONE"
relative="0"
start_year="2011"
start_month="10"
start_day="28"
end_year="2012"
end_month="12"
end_day="31"
relation="1"
id="3"
```

カレンダーにはrelationパラメータでルールを関連づけます。ルールはカレンダーに対して複数関連づけることができます。ルールオブジェクトに記載が必須なパラメータはルールタイプ(rule_typeパラメータ)によって異なります。詳細は後述するrule_typeパラメータを参照してください。

ルールの優先順位は記載順序どおりとなります。詳細は後述するrelationパラメータの説明を参照してください。その他、ルールやカレンダーのオブジェクト内のパラメータの記載順序は動作には影響ありません。

パラメータは必須となっているもの以外は省略が可能です。省略された場合は、システムであらかじめ定義されているデフォルト値と解釈されます。また、パラメータのバリューを空("")にした場合も省略されたと解釈されて、デフォルト値が適用されます。

以下に説明する各部品パラメータの定義条件は下記表の通りです。

定義条件	説明
フォーマット	指定された入力形式に従って定義してください。
設定範囲	範囲内のパラメータを選択して定義してください。
文字制限	この文字列を定義することはできません。
互換性	パラメータがサポートされたJPFバージョンが記載しています。例として「Definition 5.0以降」となっている場合はそのパラメータは「Definition 5.0」

定義条件	説明
	以降のバージョンのJPFで使用可能です。互換性の記載がないものは「Definition 1.0」からサポートされています。

6.1.1. 共通設定

ひとつのオブジェクトに必ず設定するパラメータは次の通りです。

■ID

ファイル内で一意なIDを指定します。本パラメータは全オブジェクトに必須です。

■ キー

id

■ バリュー

- ・ 設定範囲

0-9999999

■種別

カレンダーカールールを表す種別を指定します。本パラメータは全オブジェクトに必須です。

■ キー

type

■ バリュー

項目名	説明
WKCAL	稼働日カレンダー
RULE	ルール

6.1.2. 稼働日カレンダー設定

種別に「WKCAL」（稼働日カレンダー）を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■基本-名前

カレンダーの名前を設定します。本パラメータはカレンダーに必須です。

■ キー

name

■ バリュー

- ・ 文字制限

1. 最大バイト数は128バイトです。

2. 名前の最初の文字はアルファベット、アンダーライン、数字、2バイト文字しか使用できません。

3. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

4. "SScalendar"はカレンダーの名前として使用できません。

6.1.3. ルール設定

種別に「RULE」(ルール)を選択した時に設定できるパラメータは次の通りです。

■基本-関連ID

種別がルールの場合、関係付ける稼働日カレンダーのIDを指定します。本パラメータは全ルールに必須です。

関連IDが同じルール同士では、記載順序が上のルールの方が先に適用されます。適用順序を変えたい場合はルールの記載場所を入れ替えて調整してください。

■ キー

relation

■ バリュー

- ・ 設定範囲

0-999999

■登録/除外

カレンダールールの登録または除外を設定します。本パラメータは全ルールに必須です。

登録：指定したルールの日時をジョブ稼働日としてカレンダーに追加することを意味します。

除外：指定したルールの日時を非稼働日としてカレンダーから削除することを意味します。

■ キー

regist

■ バリュー

- ・ 設定範囲

1 - 「登録」

0 - 「除外」

■ルール種別

ルールの種別を設定します。本パラメータは全ルールに必須です。

■ キー

rule_type

■ バリュー

- ・ 種別

毎日 - 毎日実行するルールです。

毎週 - 毎週実行するルールです。

毎月(日付) - 毎月、日付指定で実行するルールです。

毎月(曜日) - 毎月、曜日指定で実行するルールです。

毎年(日付) - 毎年、日付指定で実行するルールです。

毎年(曜日) - 毎年、曜日指定で実行するルールです。

特定日 - 指定した日付に実行するルールです。

特殊 - 月初週末に実行するルールです。

- ・ 設定範囲

"daily" - 「毎日」

"weekly" - 「毎週」

"monthly" - 「毎月(日付)」

"thmonthly" - 「毎月(曜日)」

"yearly" - 「毎年(日付)」

"thyearly" - 「毎年(曜日)」

"special " - 「特定日」

"extra" - 「特殊」

- ・ タイプ毎の必須/任意パラメータ

ルールタイプ	必須パラメータ	任意パラメータ
daily	start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	
weekly	week, pause, relative, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	
monthly	day, pause, relative, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	
thmonthly	ordinal, week, pause, relative, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	
yearly	month, day, pause, relative, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	
thyearly	month, ordinal, week, pause, relative, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	
special	year, month, day	
extra	relative, extra, start_year, start_month, start_day, end_year, end_month, end_day	

■日付-年

年を指定します。

- キー

year

- バリユー

- ・ 設定範囲

1997-2037

■日付-月

月を指定します。

- キー

month

- バリ्यू

- ・ 設定範囲

1-12

■日付-日

日を指定します。毎月(日付) ルールと、毎年(日付)ルールの場合は月末を指定する"LAST"が有効です。

- キー

day

- バリ्यू

- ・ 設定範囲

1-31

"LAST" - (monthlyとyearlyのみ)

■曜日-序数

第n(1,2,3,4,5,最後)週かを指定します。

- キー

ordinal

- バリ्यू

- ・ 設定範囲

1-5

"LAST"

■曜日-曜日

曜日を指定します。

- キー

week

- バリ्यू

- ・ 設定範囲

- 0 - 日曜日
- 1 - 月曜日
- 2 - 火曜日
- 3 - 水曜日
- 4 - 木曜日
- 5 - 金曜日
- 6 - 土曜日

■休止日

指定された実行日が稼働日カレンダーで定義されている休止日にあたる場合に、実行予定日を自動的にシフトするかどうかを指定します。

- キー

pause

- バリュー

- ・ 設定範囲

"BEFORE" - 「前シフト」

"AFTER" - 「後シフト」

"NONE" - 「対象外」

■相対

もとの日から稼働日だけを数えて指定日数分ずらした日を指定します。もとの日から未来方向にずらすには+(プラス)、過去方向にずらすには-(マイナス)の日数を指定します。

- キー

relative

- バリュー

- ・ 設定範囲

-31 - 31

■特殊

「特殊ルール」を指定した場合、月初週末を選択する必要があります。

- キー

extra

- バリュー

- ・ 設定範囲

"firstwe"

■適用期間-開始日-年

適用開始「年」を指定します。

■ キー

start_year

■ バリュー

- ・ 設定範囲

1997-2037

■適用期間-開始日-月

適用開始「月」を指定します。

■ キー

start_month

■ バリュー

- ・ 設定範囲

1-12

■適用期間-開始日-日

適用開始「日」を指定します。

■ キー

start_day

■ バリュー

- ・ 設定範囲

1-31

■適用期間-終了日-年

適用終了「年」を指定します。

■ キー

end_year

■ バリュー

- ・ 設定範囲

1997-2037

■適用期間-終了日-月

適用終了「月」を指定します。

■ キー

end_month

■ バリユー

- ・ 設定範囲

1-12

■適用期間-終了日-日

適用終了「日」を指定します。

■ キー

end_day

■ バリユー

- ・ 設定範囲

1-31

6.1.4. タイムゾーン設定

種別に「WKCAL」(カレンダー)を選択した場合、カレンダーに対してタイムゾーンを設定することができます。タイムゾーンとして設定できるパラメータは次の通りです。

■タイムゾーン設定-設定

カレンダーへのタイムゾーン設定機能を有効/無効にします。

■ キー

timezone_enable

■ バリユー

- ・ 設定範囲

1 - 有効

0 - 無効

- ・ 互換性

Definition 3.0以降

■タイムゾーン設定-GMTからのオフセット-時

GMTからのオフセット(時単位)を指定します。timezone_enable/パラメータが1の場合は必須です。

■ キー

timezone_offset_hour

■ バリユー

- ・ 設定範囲

-12 - 12

- 互換性

Definition 3.0以降

■タイムゾーン設定-GMTからのオフセット-分

GMTからのオフセット(分単位)を指定します。timezone_enable/パラメータが1の場合は必須です。

■ キー

timezone_offset_min

■ バリュー

- 設定範囲

0 - 59

- 互換性

Definition 3.0以降

■夏時間-設定

カレンダーに夏時間を設定します。timezone_enable/パラメータが1の場合は必須です。

■ キー

summer_enable

■ バリュー

- 設定範囲

1 - 設定する

0 - 設定しない

- 互換性

Definition 3.0以降

■夏時間-開始日-月

夏時間開始月を設定します。summer_enable/パラメータが1の場合に必須です。

■ キー

summer_start_month

■ バリュー

- 設定範囲

1 - 12

- 互換性

Definition 3.0以降

■夏時間-開始日-序数

夏時間開始週を設定します。summer_enableパラメータが1の場合に必須です。

■ キー

summer_start_thweek

■ バリュー

・ 設定範囲

1 - 第一週

2 - 第二週

3 - 第三週

4 - 第四週

LAST - 最終週

・ 互換性

Definition 3.0以降

■ 夏時間-開始日-曜日

夏時間開始曜日を設定します。summer_enableパラメータが1の場合に必須です。

■ キー

summer_start_week

■ バリュー

・ 設定範囲

0 - 日曜日

1 - 月曜日

2 - 火曜日

3 - 水曜日

4 - 木曜日

5 - 金曜日

6 - 土曜日

・ 互換性

Definition 3.0以降

■ 夏時間-開始日-時

夏時間開始時間を設定します。summer_enableパラメータが1の場合に必須です。

■ キー

summer_start_hour

- バリュー

- 設定範囲

0 - 23

- 互換性

Definition 3.0以降

- 夏時間-開始日-分

夏時間開始分を設定します。summer_enableパラメータが1の場合に必須です。

- キー

summer_start_min

- バリュー

- 設定範囲

0 - 59

- 互換性

Definition 3.0以降

- 夏時間-終了日-月

夏時間終了月を設定します。summer_enableパラメータが1の場合に必須です。

- キー

summer_end_month

- バリュー

- 設定範囲

1 - 12

- 互換性

Definition 3.0以降

- 夏時間-終了日-序数

夏時間終了週を設定します。summer_enableパラメータが1の場合に必須です。

- キー

summer_end_thweek

- バリュー

- 設定範囲

1 - 第一週

2 - 第二週

3 - 第三週

4 - 第四週

LAST - 最終週

- 互換性

Definition 3.0以降

■夏時間-終了日-曜日

夏時間終了曜日を設定します。summer_enable/パラメータが1の場合に必須です。

■ キー

summer_end_week

■ バリュー

- 設定範囲

0 - 日曜日

1 - 月曜日

2 - 火曜日

3 - 水曜日

4 - 木曜日

5 - 金曜日

6 - 土曜日

- 互換性

Definition 3.0以降

■夏時間-終了日-時

夏時間終了時間を設定します。summer_enable/パラメータが1の場合に必須です。

■ キー

summer_end_hour

■ バリュー

- 設定範囲

0 - 23

- 互換性

Definition 3.0以降

■夏時間-終了日-分

夏時間終了分を設定します。summer_enable/パラメータが1の場合に必須です。

■ キー

summer_end_min

■ バリュー

- ・ 設定範囲

0 - 59

- ・ 互換性

Definition 3.0以降

■ 夏時間-オフセット-時

夏時間期間中にオフセット値(時単位)を設定します。summer_enableパラメータが1の場合に必須です。

夏時間期間中は「夏時間オフセット」で指定した時間分、時刻の調整が行われます。

■ キー

summer_offset_hour

■ バリュー

- ・ 設定範囲

-12 - 12

- ・ 互換性

Definition 3.0以降

■ 夏時間-オフセット-分

夏時間期間中にオフセット値(分単位)を設定します。summer_enableパラメータが1の場合に必須です。

夏時間期間中は「夏時間オフセット」で指定した時間分、時刻の調整が行われます。

■ キー

summer_offset_min

■ バリュー

- ・ 設定範囲

0 - 59

- ・ 互換性

Definition 3.0以降

6.2. JDF(wkcalタイプ)ファイルのサンプル

以下にJDF(wkcalタイプ)ファイルのサンプルを掲載します

```
#これはJDF(wkcalタイプ)ファイルのサンプルです
version="1.0"
type="wkcal"
%%
type="WKCAL"
id="1"
name="cal01"
---
type="RULE"
rule_type="daily"
regist="1"
start_year="2011"
start_month="10"
start_day="18"
end_year="2012"
end_month="12"
end_day="31"
relation="1"
id="2"
---
type="RULE"
rule_type="weekly"
regist="0"
week="6"
pause="NONE"
relative="0"
start_year="2011"
start_month="10"
start_day="18"
end_year="2012"
end_month="12"
end_day="31"
relation="1"
id="3"
---
```

7. customjob_templateフォーマットタイプ

本章ではJDFフォーマットのcustomjob_templateフォーマットタイプについて説明します。

7.1. customjob_templateフォーマットタイプについて

customjob_templateフォーマットタイプは、カスタムジョブテンプレート定義を作成するためのフォーマットです。ヘッダセクションのtypeパラメータには"customjob_template"を指定します。カスタムジョブテンプレートフォーマットは以下のように独立した一つの定義として作成します。

customjob_templateフォーマットタイプはDefinition 5.0以降で利用可能です。

カスタムジョブテンプレートの記述例

```
type="CUSTOMJOB_TEMPLATE"
priority=""
core_max="no"
dseg_max="no"
perm_max="no"
pmem_max="no"
sseg_max="no"
pcpu_max="no"
niceval=""
shell=""
stdout=""
stderr=""
restart="on"
queue=""
expflag="res"
exptime="0 second"
jsrflag="off"
normal_code="0"
warn_code=""
etimewarn="off"
inithold="off"
exportv="n"
overtime="def"
critpt_timeS="00:00"
critpt_timeE="00:00"
critpt_at="start"
critpt_warn="off"
critpt_actionS="off"
critpt_actionE="off"
exec_username=""
icon="Star"
scriptVAR="'interval','10','スリープ時間'"
template_ver="1346840771"
script="sleep <<interval>>"
name="sleep"
```

パラメータが必須と記載されているものは必ず指定する必要があります。またパラメータによっては他のパラメータの設定によって必須かどうかが変わるものもありますが、詳細は各パラメータの設定を確認してください。

パラメータは必須となっているもの以外は省略が可能です。省略された場合は、システムであらかじめ定義されているデフォルト値と解釈されます。また、パラメータのバリューを空("")にした場合も省略されたと解釈されて、デフォルト値が適用されます。



テキスト定義機能ではCL/Winから設定可能な部品のデフォルトパラメータの設定の影響は受けません。省略可能な部品のパラメータが省略された場合は、システムであらかじめ定義されているデフォルト値と解釈されます。

以下に説明する各部品パラメータの定義条件は下記表の通りです。

定義条件	説明
フォーマット	指定された入力形式に従って定義してください。
設定範囲	範囲内のパラメータを選択して定義してください。
文字制限	この制限に当てはまる文字、文字列を指定できません。
デフォルト値	省略可能なパラメータのデフォルト値です。「なし」になっているものはJob Directorとして指定しなくても動作可能なものか、空欄として指定されて意味あるものになります。必須なパラメータにはデフォルト値はありません。
互換性	パラメータがサポートされたJPFバージョンが記載しています。例として「Definition 5.0以降」となっている場合はそのパラメータは「Definition 5.0」以降のバージョンのJPFで使用可能です。互換性の記載がないものは「Definition 1.0」からサポートされています。

7.1.1. カスタムジョブテンプレート設定

カスタムジョブテンプレートに設定できるパラメータは次の通りです。

■アイコン

カスタムジョブ部品の表示アイコンを指定します。本設定は必須項目です。

- キー
 - icon
- バリュー
 - ・ 設定範囲
 - "Triangle"
 - "Hexagon"
 - "Pentagon"
 - "Diamond"
 - "Ellipse"
 - "Wave"
 - "Star"
 - "Cloud"
 - "Cube"
 - "Cylinder"

■テンプレート名

カスタムジョブテンプレートの名称を記述します。本設定は必須項目です。

- キー
 - name
- バリュー

- 文字制限

半角英数字のみ指定可能です。

最大バイト数は20バイトです。

■テンプレートバージョン

使用したカスタムジョブテンプレートのバージョンを記述します。

- キー

template_ver

- バリュー

サーバ側で更新時に自動的に設定します。

■カスタム変数

カスタムジョブのスクリプト内部に埋め込む変数を記述します。本設定は複数設定可能です。

- キー

scriptVAR

- バリュー

- フォーマット

フォーマットは以下のとおりです。

'<変数名>','<値>','<コメント>'

- 変数名

- <変数名>に空欄を指定する事はできません。
- <変数名>の最大バイト数は51バイトです。
- <変数名>にはスペース、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

< = > # ' "

- 値(Definition 9.0以降)

- <値>に空欄を設定することはできません。
- <値>の最大バイト数は300バイトです。
- <値>にはタブ、特殊文字は使用できません。

- 値(Definition 8.0以前)

- <値>に空欄を設定することはできません。
- <値>の最大バイト数は256バイトです。
- <値>にはタブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

' "

- 値のエスケープシーケンス(Definition 9.0以降)

' -> \q

" -> \w

\ -> \b

- コメント

- <コメント>の最大バイト数は256バイトです。

- <コメント>にはスペース、タブ、特殊文字および以下の文字は使用できません。

, # ' "

■スクリプト

カスタムジョブのスクリプトを記述します。

- キー

script

- バリュー

- 文字制限

改行、(")ダブルクォート、(\)円マーク(バックスラッシュ)を直接記述することはできません。これらを記述するには下記のエスケープシーケンスを使用します。

- エスケープシーケンス

改行 -> \n

" -> \w

\ -> \b

- スクリプトの最大バイト数は1Mバイトです。それ以上のサイズは動作サポート外となります。

また、文字数が32767文字を超える場合、JD Assistの定義編集ツールで正しく表示できませんのでご注意ください。これは、Excelのセルに表示可能な最大文字数が32767文字であるためです。

- デフォルト値

なし

■投入キュー

ジョブを投入するキューを指定します。

- キー

queue

- バリュー

- フォーマット

フォーマットは以下のとおりです。マシン名は必ず入れるようにしてください。

<キュー名>@<マシン名>

- キュー名

半角英数字、アンダーラインのみ指定可能です。また、最初の文字を数字にすることはできません。

最大バイト数は15バイトです。

- マシン名

1. 数値のみの名前は使用できません。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

3. 最大バイト数は63バイトです。

- デフォルト値

なし

■キュー内優先度

キュー内でのジョブの優先度を指定できます。値が大きいほど優先されます。

- キー

priority

- バリユー

- 設定範囲

0-63

- デフォルト値

なし

■ジョブ実行ユーザ

ジョブを実行するユーザを指定します。本パラメータを無指定にした場合は、ジョブネットワークの所有者が実行するユーザになります。

- キー

exec_username

- バリユー

- 文字制限

スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

- デフォルト値

なし

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-ナイス値

Linuxのナイス値を設定します。

■ キー

niceval

■ バリユー

- 設定範囲

-127-+127

- デフォルト値

なし

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-CPU時間

利用できるCPU時間を設定します。

■ キー

pcpu_max

■ バリユー

- 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-9999 "second"

0-9999 "minute"

0-9999 "hour"

0-9999 "day"

- デフォルト値

no

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-メモリサイズ

利用できるメモリサイズを設定します。

■ キー

pmem_max

■ バリユー

- 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- デフォルト値

no

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-永久ファイルサイズ

利用できる永久ファイルサイズを設定します。

- キー

perm_max

- バリユー

- 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- デフォルト値

no

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-データセグメントサイズ

利用できるデータセグメントサイズを設定します。

- キー

dseg_max

- バリユー

- 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- デフォルト値

no

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-スタックサイズ

利用できるスタックサイズを設定します。

■ キー

sseg_max

■ バリュー

- 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- デフォルト値

no

■Linuxパラメータ(プロセス単位)-コアファイルサイズ

出力可能なコアファイルサイズを設定します。

■ キー

core_max

■ バリュー

- 設定範囲

"no" - 「無指定」

"unlimited" - 「無制限」

0-999999999 "byte"

0-999999999 "kb"

0-999999999 "mb"

0-999999999 "gb"

- デフォルト値

no

■標準出力先

標準出力の出力先ファイル名です。

■ キー

stdout

■ バリュー**・ 文字制限**

以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<>?[@]^_{|}~

最大バイト数は112バイトです。

・ デフォルト値

なし

■標準エラー出力先

標準エラー出力の出力先ファイル名です。

■ キー

stderr

■ バリュー**・ 文字制限**

以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<>?[@]^_{|}~

最大バイト数は112バイトです。

・ デフォルト値

なし

■変数継承

このジョブで指定した環境変数を次のジョブにどのように引き継ぐかを指定します。

■ キー

exportv

■ バリュー**・ 設定範囲**

"n" - 「OFF」

"o" - 「標準出力」

"e" - 「標準エラー出力」

- ・ デフォルト値

n

■クリティカルポイント警告-警告動作の有無

onの場合、クリティカルポイント警告機能が有効になります。

- キー

critpt_warn

- バリユー

- ・ 設定範囲

"on"

"off"

- ・ デフォルト値

off

■クリティカルポイント警告-検査箇所

検査の実行点を指定します。critpt_warnがonの場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_at

- バリユー

- ・ 設定範囲

"start" - 「実行開始点」

"end" - 「実行終了点」

"both" - 「すべて」

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■クリティカルポイント警告-実行開始点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。critpt_atが「start」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_timeS

- バリユー

- ・ フォーマット

①絶対時刻(Definition 9.0以前)

00:00～23:59

①絶対時刻(Definition 10.0以降)

00:00～99:59

②相対時間

+00:00～+23:59

+000:00～+999:59

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■クリティカルポイント警告-実行開始点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。critpt_atが「start」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_actionS

- バリュー

- ・ 設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"hold" - 「保留」

- ・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■クリティカルポイント警告-実行終了点-警告時刻

検査時刻を24時間制の時刻か、相対時刻で指定します。critpt_atが「end」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_timeE

- バリュー

- ・ フォーマット

①絶対時刻(Definition 9.0以前)

00:00～23:59

①絶対時刻(Definition 10.0以降)

00:00～99:59

②相対時間

+00:00~+23:59

+000:00~+999:59

- デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■クリティカルポイント警告-実行終了点-自動操作

警告発生時の動作を指定します。critpt_atが「end」または「both」の場合には本パラメータは必須です。

- キー

critpt_actionE

- バリュー

- 設定範囲

"off" - 「なし」

"skip" - 「スキップ」

"forcestop" - 「強制停止」

"hold" - 「保留」

- デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■スクリプト実行用シェルコマンド

バッチリクエストを実行するシェルを絶対パスで指定します。

- キー

shell

- バリュー

- 文字制限

最大バイト数は260バイトです。

以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-<=>?@[]^_{|}~

- デフォルト値

なし

■リスタート

システム再起動時にジョブが自動的に再実行されるかどうかを指定します。

- キー

restart

■ バリユー

• 設定範囲

"on" - 「ENABLE」

"off" - 「DISABLE」

• デフォルト値

on

■ 終了コード-正常終了コード値

正常終了とみなす終了コードの範囲を指定します。この指定に従い、ジョブの実行結果を判定します。正常終了コードにも警告終了コードにもマッチしない終了コードは異常終了となります。終了コードの指定には複数値(区切り)や範囲値(-つなぎ)を記述できます。

■ キー

normal_code

■ バリユー

• 設定範囲

0-255

• デフォルト値

なし

■ 終了コード-警告終了コード値

警告終了とみなす終了コードの範囲を指定します。この指定に従い、ジョブの実行結果を判定します。正常終了コードにも警告終了コードにもマッチしない終了コードは異常終了となります。終了コードの指定には複数値(区切り)や範囲値(-つなぎ)を記述できます。

■ キー

warn_code

■ バリユー

• 設定範囲

0-255

• 設定例

0

0,3

0,3-7,10

• デフォルト値

なし

■ 予想実行時間-指定方法

予想実行時間の指定方法を設定します。

■ キー

expflag

■ バリユー

・ 設定範囲

"set" - 「直接指定」 予想実行時間を直接指定します。

"res" - 「前回実績」 正常終了した最近のカスタムジョブの実行実績を予想実行時間とします。

・ デフォルト値

res

■ 予想実行時間-時間

指定方法(expflag)で直接指定(set)を選択した場合に、時間を指定します。単位によって値の設定範囲が異なります。expflagパラメータをsetにした場合、本パラメータは必須です。

■ キー

exptime

■ バリユー

・ 設定範囲

0-31536000 "second" - 「秒」

0-525600 "minute" - 「分」

0-8760 "hour" - 「時間」

0-365 "day" - 「日」

・ デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■ ジョブステップリスタート

マシンダウン時等にスクリプト内のチェックポイントで最後に通過した箇所からジョブを再実行するかどうかを設定します。Linux版のみ有効な機能です。

■ キー

jsrflag

■ バリユー

・ 設定範囲

"on" - 「ENABLE」

"off" - 「DISABLE」

- デフォルト値

off

■超過警告

予想実行時間を過ぎててもカスタムジョブが終了しない場合に、統合監視サービスやWindows イベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

- キー

etimewarn

- バリユー

- 設定範囲

"on" - 警告メッセージを出力します。

"off" - 警告メッセージを出力しません

- デフォルト値

off

■終了予定時刻超過時

超過警告onの場合に、予想実行時間を過ぎててもカスタムジョブが終了しない時の動作を設定します。etimewarnパラメータがonの場合に本パラメータは必須です。

- キー

overtime

- バリユー

- 設定範囲

"def" - 「既定」

"cont" - 「停止しない」

"stop" - 「停止する」

"skip" - 「スキップ」

- デフォルト値

本パラメータは必須時以外は無視されます。

■事前設定

ジョブをあらかじめ保留状態またはスキップ状態としておきます。ジョブネットワークの開始後に保留解除またはスキップ解除操作を行う必要があります。

- キー

inithold

- バリユー

- 設定範囲

"on" - 「保留」

"skip" - 「スキップ」

"off" - 「オフ」

- デフォルト値

off

7.1.2. グループ

Definition 7.0以降では、カスタムジョブグループを定義することが可能です。カスタムジョブグループを定義する場合は、種別に「CUSTOMGRP」(グループ)を選択します。

「CUSTOMGRP」指定時に設定できるパラメータは次の通りです。

■所属グループ

グループの所属グループを指定します。フォーマットは以下のように「.」で始めてグループ階層を「.」で区切って並べます。ただし、指定可能なグループは「.User」グループの配下に限られます。

- キー

group

- バリユー

- フォーマット

.User.<group1>.<group2>.<group3>

- 文字制限

1. 最大バイト数は40バイトです。

2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_{|}~

- デフォルト値

なし

- 互換性

Definition 7.0以降

■グループ名

カスタムジョブグループの名称を記述します。本設定は必須項目です。

- キー

name

- バリユー

- 文字制限

1. 最大バイト数は40バイトです。
2. スペース、タブ、改行および以下の文字は使用できません。

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~

- 互換性

Definition 7.0以降

■コメント

グループに設定するコメントを指定します。

■ キー

comment

■ バリュー

- 最大バイト数は256バイトです。

- 文字制限

タブ、改行および以下の文字は使用できません。

^#\$() [] { } \ | < > " ' &

- デフォルト値

なし

- 互換性

Definition 7.0以降

7.2. customjob_templateファイルのサンプル

以下にcustomjob_templateファイルのサンプルを掲載します

```
#これはcustomjob_templateタイプのJDFサンプルです
version="1.0"
type="customjob_template"
%%
type="CUSTOMJOB_TEMPLATE"
priority=""
core_max="no"
dseg_max="no"
perm_max="no"
pmem_max="no"
sseg_max="no"
pcpu_max="no"
niceval=""
shell=""
stdout=""
stderr=""
restart="on"
queue=""
expflag="res"
exptime="0 second"
jsrflag="off"
normal_code="0"
warn_code=""
etimewarn="off"
inithold="off"
exportv="n"
overtime="def"
critpt_timeS="00:00"
critpt_timeE="00:00"
critpt_at="start"
critpt_warn="off"
critpt_actionS="off"
critpt_actionE="off"
exec_username=""
icon="Star"
scriptVAR="'interval','10','スリープ時間'"
template_ver="1346840771"
script="sleep <<interval>>"
name="sleep"
---
```

8. operationフォーマットタイプ

本章ではJDFフォーマットのoperationフォーマットタイプについて説明します。

8.1. operationフォーマットタイプについて

operationフォーマットタイプはサーバにJDFの定義をアップロードするときに、サーバ上で定義をどのように操作するのかを指定するフォーマットです。ヘッダセクションのtypeパラメータには"operation"を指定します。

operationフォーマットのボディセクションでは複数のオブジェクトを指定できます。各オブジェクトに指定可能はパラメータ3つあり、すべて必須パラメータです。以下にパラメータの詳細を記載します。

表8.1 operationファイルのパラメータ

パラメータ	意味
name	操作対象の定義の名前
type	操作対象の定義タイプ (JNW、SCHED、TRG、TARGET_TEXTLOG、WKCALまたはCUSTOMJOB_TEMPLATE)
operation	対象に対する操作(詳細は後述)

nameパラメータは各種タイプ(JNW/SCHED/TRG/TARGET_TEXTLOG/WKCAL/CUSTOMJOB_TEMPLATE)毎に一意になっている必要があります。(JNWはジョブネットワーク定義、SCHEDはスケジュール定義、TRGは起動トリガ定義、TARGET_TEXTLOGは監視対象テキストログ、WKCALはカレンダー定義、CUSTOMJOB_TEMPLATEはカスタムジョブテンプレート定義を指します)

operationパラメータには以下の値が設定できます。

表8.2 operationパラメータに設定可能な値

オペレーション名	意味
update	アップロード時に定義をJDFで定義した内容に更新します。サーバに定義が存在しない場合は作成します。
create	アップロード時にJDFで定義した内容を新規作成します。すでに定義が存在する場合は失敗します。
delete	アップロード時にサーバ側に存在する定義を削除します。サーバ上に定義が存在しない場合は失敗します。
ignore	アップロード時に本定義に対して何も操作を行いません。確認のためにダウンロードしたジョブネットワークで更新などの操作を行いたくない場合に有効です。



- operationファイルに存在しない定義名は操作の対象にならず、サーバへのアップロード時には無視されます。サーバ側での操作が必要な定義の場合は必ずoperationファイルに対応するオブジェクトを作成してください。
- operationファイルに操作対象のオブジェクトを記載しても、実際の定義が存在しない場合は、その操作は無視されます。この為、jdf_convコマンドで変換などを行う際にはoperationファイル(operation.jdf)を指定するようにしてください。

8.2. operationファイルのサンプル

以下にオペレーションファイルのサンプルを掲載します

```
#これはオペレーションタイプのJDFサンプルです
version="1.0"
type="operation"
%%
name="jnw1" #ジョブネットワーク(jnw1)を更新する
type="JNW"
operation="update"
---
name="sched1" #スケジュール(sched1)を作成する
type="SCHED"
operation="create"
---
name="jnw2" #ジョブネットワーク(jnw2)を削除する
type="JNW"
operation="delete"
---
name="cal1" #カレンダー(cal1)を無視する
type="WKCAL"
operation="ignore"
```

9. コマンド

テキスト定義機能に関連するコマンドについて説明します。

コマンド名	概要
jdconv	JDFファイルをJob Directorの定義情報として登録可能なJPFファイルへ変換するコマンドです。 また、-xオプションを指定した場合は、JPFファイルをJDFファイルへ変換することもできます。 詳細は、<コマンドリファレンス>の「3.21 jdconv JDFファイルとJPFファイルの相互変換」を参照してください。
jpstat	JPFファイルの情報を表示します。サーバからダウンロードしたJPFファイルはjdconvで生成したJPFファイルの概要を知りたい場合に有効です。 詳細は、<コマンドリファレンス>の「3.17 jpstat JPFファイルの情報確認」を参照してください。
jdupload	JPFファイルをサーバにアップロードするコマンドです。 詳細は、<コマンドリファレンス>の「3.15 jdupload 定義情報のアップロード」を参照してください。
jddownload	JPFファイルをサーバからダウンロードするコマンドです。 詳細は、<コマンドリファレンス>の「3.14 jddownload 定義情報のダウンロード」を参照してください。

10. 注意事項・制限事項

本章ではテキスト定義機能の注意・制限事項について説明します。

10.1. 注意事項

■稼動日カレンダーはJob Director管理者のみアップロードすることができます。

一般ユーザでカレンダーを含むJPFファイルをアップロードした場合は、カレンダーに関する定義は無視されます。

■カスタムジョブテンプレート定義はJob Director管理者のみアップロードすることができます。

一般ユーザでカスタムジョブテンプレート定義を含むJPFファイルをアップロードした場合は、カスタムジョブテンプレートに関する定義は無視されます。

■不正なJDFファイルからjdh_convで作成したJPFファイルをサーバにアップロードした場合、予期せぬ不具合が生じる可能性があります。

■カスタムジョブのカスタム変数の値はDefinition 9.0以降でエスケープするようになったためJDFファイルを編集してJPFファイルを作成する場合、手順に注意する必要があります。

- R15.1以前の環境でJPFファイルをダウンロードし、内容を編集後、R16.1以降の環境にアップロードする場合

1. R15.1以前の環境でJPFファイルをダウンロードします。

2. jpf_statコマンドで、JPFファイルが Definition 7.0以前 であることを確認します。

jpf_statコマンドの詳細は<コマンドリファレンス>の「3.17 jpf_stat JPFファイルの情報確認」を参照してください。

3. R16.1の環境のjdh_convコマンドで、JDFファイルに変換します。

jdh_convコマンドの詳細は<コマンドリファレンス>の「3.21 jdh_conv JDFファイルとJPFファイルの相互変換」を参照してください。

4. JDFファイルを編集します。

このとき、カスタム変数の値の「\」を「\b」に修正する必要はありません。後述のアップロード時に自動的にエスケープされます。

5. R16.1の環境のjdh_convコマンドで、Definition 8.0のJPFファイルを作成します。(必ず、-w 8.0を指定します)

6. jpf_statコマンドで、JPFファイルが Definition 8.0 であることを確認します。

7. JPFファイルをR16.1の環境にアップロードします。

- R16.1以降の環境でJPFファイルをダウンロードし、内容を編集後、R15.1以前の環境にアップロードする場合

1. R16.1の環境でJPFファイルをダウンロードします。

2. jpf_statコマンドで、JPFファイルが Definition 9.0 であることを確認します。

jpf_statコマンドの詳細は<コマンドリファレンス>の「3.17 jpf_stat JPFファイルの情報確認」を参照してください。

3. R16.1の環境のjdh_convコマンドで、JDFファイルに変換します。

jdh_convコマンドの詳細は<コマンドリファレンス>の「3.21 jdh_conv JDFファイルとJPFファイルの相互変換」を参照してください。

4. JDFファイルを編集します。

このとき、カスタム変数の値の「\b」を手動で「\」に修正する必要があります。

5. R16.1の環境のjdh_convコマンドで、Definition 8.0のJPFファイルを作成します。(必ず、-w 8.0を指定します)

6. jpf_statコマンドで、JPFファイルが Definition 8.0 であることを確認します。

7. JPFファイルをR15.1以前の環境にアップロードします。

10.2. 制限事項

- 「~」「||」「-」の文字はテキスト定義機能では利用できません。部品名やパラメータ等に本文字を使用した場合、アップロードに失敗することがありますので使用しないでください。

